

# 「王」出現前夜の京都

## —弥生社会の実像に迫る—

- |            |      |             |
|------------|------|-------------|
| 1. 弥生時代の生活 | 中川和哉 | P 1 ~ P 8   |
| 2. 弥生時代の墓制 | 福島孝行 | P 9 ~ P 20  |
| 3. 弥生時代の京都 | 森岡秀人 | P 21 ~ P 39 |

日時：平成17年8月6日（土）  
於：京都社会福祉会館 ホール

主催 京 都 府 教 育 委 員 会  
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

## 弥生時代の生活

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
主任調査員 中川 和哉

はじめに

京都府は、その地勢と気候などから大きく3つの地域に別けて語られることが多い。それは桂川、宇治川、木津川などの淀川に流れ込む河川が流れる比較的大きな平地部のある南部地域、分水嶺になる丹波山塊を含みその中に点在する小盆地が見られる中部地域、日本海に面し、冬に雪の多い北部地域である。この3つの地域は、律令期に設けられた旧国名ではそれぞれ山城、丹波、丹後にあたる。

今回の発表では、最近の調査成果を踏まえ京都府内における弥生文化を概観できるように各テーマに分け、京都府内での各地域の様相を明らかにしていきたい。

### 1. 弥生時代の集落（第1図）

京都府内で最も古い弥生時代人たちの生活の跡は、京都市下鳥羽遺跡、長岡京市雲宮遺跡で発見されている弥生時代前期前葉の土器である。これらの遺跡では土器以外の生活痕跡が少ない。弥生時代前期の本格的集落が確認されるのは中葉以降の時期で、前期の遺跡としては京丹後市扇谷遺跡・途中ヶ丘遺跡、亀岡市太田遺跡、長岡京市雲宮遺跡などが挙げられる。これらの集落の中には平地に作られたものと、高地性集落と呼ばれる丘陵上に作られたものが存在している。また、これまで大規模な調査が行われた弥生時代前期の遺跡では、集落を回る環濠が確認されている事例が多い。丹後地域では丘陵上に壕めぐらされる集落が確認できるが、山城地域においてはこれまでのところ発見されていない。

中期になると自然堤防や段丘上に大規模な遺跡が作られるようになる。一部しか発掘調査されていないが中期の遺跡である久御山町市田齊当坊遺跡では膨大な遺物が出土しているし、長岡京市の神足遺跡、八木町池上遺跡などでは広域に遺構が分布している。山城地域では前期の集落は、中期になって集落の中心が移動し大規模化するが、扇谷遺跡では中期の遺物も確認されている。丹後地域では中期においても丘陵上に作られた大型集落が多く認められる。加悦町日吉ヶ丘遺跡は比較的平坦な丘陵上に作られた環濠を持つ集落であるが、多くの場合は奈具岡遺跡に見られるように急な斜面の山側を削りこんで、その土を谷側に盛土することによって住居を作る集落が確認できる。このような形態の集落は古墳時代まで継続する。

集落内の構造は、住居などの建物が集中する住居域と、方形周溝墓等の埋葬施設が集中する墓域に2分される。丘陵上に作られた扇谷遺跡では、近接する丘陵上に墓が作られている。集落をめぐる壕は埋められ住居域が拡張されることがしばしば確認されるが、基本的に墓をつぶして住居域が拡大することはない。

京都市東土川遺跡では、環濠の一部を掘り残しその両脇に柱跡が1対確認されており集落の入り口（第2図）と考えられている。

## 2. 弥生時代の祭り

お祭りをした痕跡が、全国各地で報告されているが、京都府でも雲宮遺跡においてブタの下顎骨に孔を開けつるしたと考えられる骨が、環濠の中から検出されている。

お祭りのときの楽器を起源とする銅鐸は野田川町比丘尼城遺跡（2口）、加悦町須代神社内遺跡（1口）、舞鶴市匂ヶ崎遺跡（2口）、京都市下弓削遺跡（1口）、同梅ヶ畑遺跡（4口）、八幡市式部谷遺跡（1口）、木津町相良山銅鐸出土地（1口）で出土している。梅ヶ畑遺跡（第4図）では、2口1対に入れ子になった状態で埋納されていた。この銅鐸を模した土製品は京丹後市古殿遺跡、加悦町日吉ヶ丘遺跡、綾部市観音寺遺跡（第5図）などで出土している。

楽器としては土を焼いて作った笛である陶埴（第3図）の出土が上げられる。陶埴はその起源が中国に求められる卵形をした笛で、京丹後市途中ヶ丘遺跡・扇谷遺跡・竹野遺跡・加悦町蔵ヶ崎遺跡で出土している。この遺物は弥生時代前期の日本海側の遺跡で多く出土しており、京都では丹後地域に特有の遺物である。

観音寺遺跡からはお祭りに使ったと考えられるセミ形土製品（第5図）が出土している。この土製品がセミを模したものであるならば、中国の葬送儀礼が京都に入っていたことになる。

## 3. 弥生時代の食物生産

弥生時代に入ると本格的に水田耕作が行われるようになる。水田耕作には水を引くための灌漑施設が必要とされる。蔵ヶ崎遺跡（第6図）から灌漑用水と考えられる矢板を打ち込んだ弥生時代中期の溝が検出されている。東土川遺跡では小規模に区画された水田（第8図）が多く検出されており、水口部分が確認できるものもある。水田域の中には通常の畦と明らかに規模の異なる大型の畦があり道として利用されていたと想定されている。

農耕に必要な農耕具は集落内で生産されており、雲宮・東土川遺跡では未成品とともに木製農耕具が発見されている。

弥生時代に入ると稲作に重きを成して記述されるが、雲宮遺跡では鹿・イノシシ（ブタ？）の骨が出土しており、縄文時代の主要な獲物である2種類の動物が継続して捕獲され食べられていたことがわかる。

また、京丹後市の奈具谷遺跡では弥生時代のトチの実の加工をした施設（第7図）が発見されている。弥生時代においても狩猟や採集は一定の割合で継続されていたものと考えられる。

## 4. 生産

### A. 土器

弥生時代前期の土器は比較的良く似た土器が作られるが、丹後地域では綾杉紋と呼ばれる文様が壺に施されるものが多く、山城地域では綾杉紋が施されることがほとんどない。綾杉紋は日本海地域の弥生時代遺跡の土器に特徴的であり、陶埴の分布域とも重なる。

山城地域と丹波地域の土器に差が見られるのは中期中葉以降である。

土器生産に必要とされる粘土は土器作りに適したものが、採取されており亀岡市<sup>あざち</sup>案察使遺跡からは中期の採掘坑と考えられる土坑が検出されている。また、弥生時代後期の採掘坑も多数発見されている。土器に用いられた粘土が貯蔵されていた痕跡が認められる住居跡が神足遺跡や池上遺跡で検出されている。

## B. 金属器

青銅器を生産した形跡がある遺跡は向日市鶏冠井遺跡で、菱環紐銅鐸の鋳型（第9図）が弥生時代中期前葉の溝から出土している。隣接する長岡京市では神足遺跡（R807）で銅剣（第10図）が出土している。青銅製ではないが銅剣を模した粘板岩製の銅剣形石剣は山城地域とりわけ桂川東岸で多く発見されている。

鉄器を生産した遺跡としては奈良岡遺跡が上げられる。この遺跡では玉作りに付随した鉄器生産が行われた。鍛冶炉が4基検出されており、鉄素材として鑄鉄脱炭鋼が朝鮮半島経由で中国からもたらされたと考えられている。作られた鉄器は玉の原石を割るタガネ、整形加工する棒状工具、孔を開ける錐状鉄器のほか鍛造鉄斧などが出土している。日吉ヶ丘遺跡では、鍛造鉄斧や鑄造鉄斧、槍鉋など多くの鉄器が出土している。鉄器は山城地域などでも出土しているが丹後地域の出土事例は内容・量ともに勝っている。

## C. 石器

石器は金属器の入ってくる弥生時代においても主要な道具であり、大きく分けると磨製石器と打製石器に分けられる。打製石器の多くはサヌカイトと呼ばれる火山岩から作られており石鎌・錐・石小刀・石剣などが作られる。磨製石器には石剣・石庖丁・石斧・石鎌などがあり、比較的大型の石器が作られる特徴がある。京都府では石剣や石庖丁には粘板岩と呼ばれる灰～黒色の岩石が主に用いられている。粘板岩は遺跡内に持ち込まれ盛んに石器が作られている（第16・17図）。また大型の石斧もヒン岩や閃緑岩、砂岩等比重の重い石材が円礫として遺跡内に運ばれ加工されたことが、日吉ヶ丘遺跡や池上遺跡の出土例からわかる。

石剣には打製のものと磨製のものがあるが、京都府内では石材産地に近いため磨製のものが70～80%を占める遺跡が多い。石鎌では磨製の比率が大阪などに比べて多いが、20～30%で石剣と比べるとサヌカイトを好む傾向が認められる。

石庖丁は弥生時代の前期から中期初頭には奈良県の耳成山の流紋岩製のものが山城地域で若干検出されているが大半は粘板岩製である。中期の遺跡を概観してみると、山城・丹波・丹後地域を通して粘板岩が多く使われることが通例である。しかし、奈良県に近い畑ノ前遺跡では結晶片岩製の石庖丁が比較的高い割合で含まれており、石剣や石鎌はすべて打製で、大阪や奈良の遺跡の石材組成に近いことから山城地域においても、粘板岩が取れる丹波地域から離れるにつれ石材の環境が変化すると考えられる。

## D. 玉作り

装飾品の1つである石製の玉の多くは碧玉と呼ばれる緑色の石で作られた。玉作りは主に原石から板状の素材を作り、それを分割して柱状にし、円柱状に仕上げ、両端から穿孔し管玉を

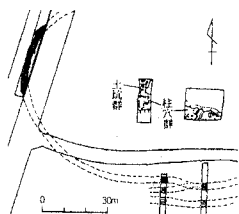
作り上げる。石材の分割には割れやすいように筋目を入れて行うことが多く、工具として紅簾片岩製の石鋸が用いられる。また、穴あけ工具である石針も集落内で生産されている。碧玉製の玉作りは京都府内の比較的大きな集落で行われている。

奈具岡遺跡では碧玉のほか水晶やガラスを用いた玉作りが行われ、前述したように鉄製工具も利用された。おびただしい量の素材や未成品が発見されており、玉作りの専門的な集団により玉作りが行われていたものと考えられている。

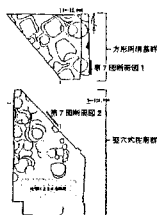
## 5. 戦い

弥生時代になって現れてくるものに、剣、矛、戈がある。これらの武器はすべて殺人のための利器であり、鉄、青銅、石と素材をかえて弥生時代の遺跡で出土する。また、縄文時代から狩猟用に用いられてきた弓矢もその鏃の大きさが大きくなり、戦闘用のものに変質したと考えられている。こうした状況を表すように九州地域では剣の刺さった骨や首の切られた人骨が出土することもある。

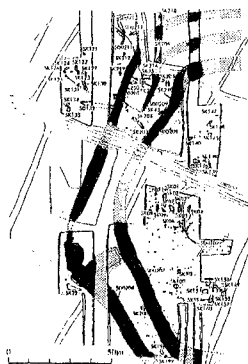
京都でも弥生時代の埋葬主体部を発掘するとき、その中から石製の武器（第 14・15 図）が出土することがある。骨は腐ってしまいい残されていないが、武器の先端部の破損状況や、出土状況から多くが人に刺さっていたものと考えられている。このような事例が戦闘行為に関与した死人の埋葬例であるならば、権力が統合していく過程に生じた戦闘行為が京都であったとも考えられる。



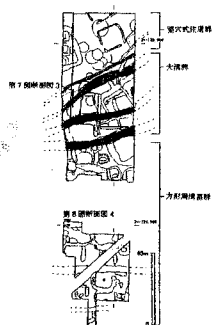
1. 雲宮遺跡



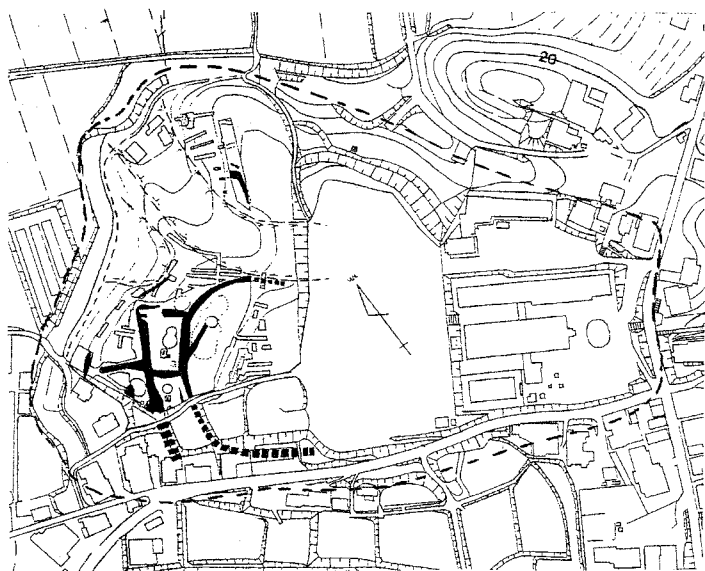
3. 市田齊当坊遺跡



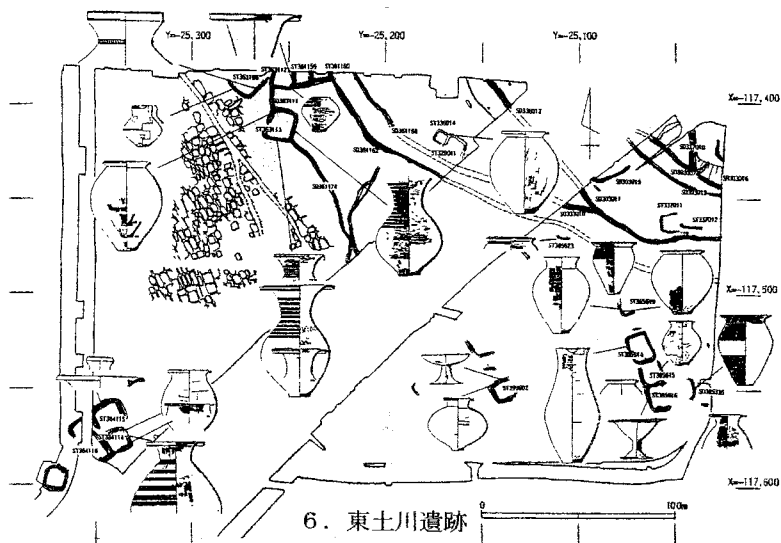
2. 太田遺跡



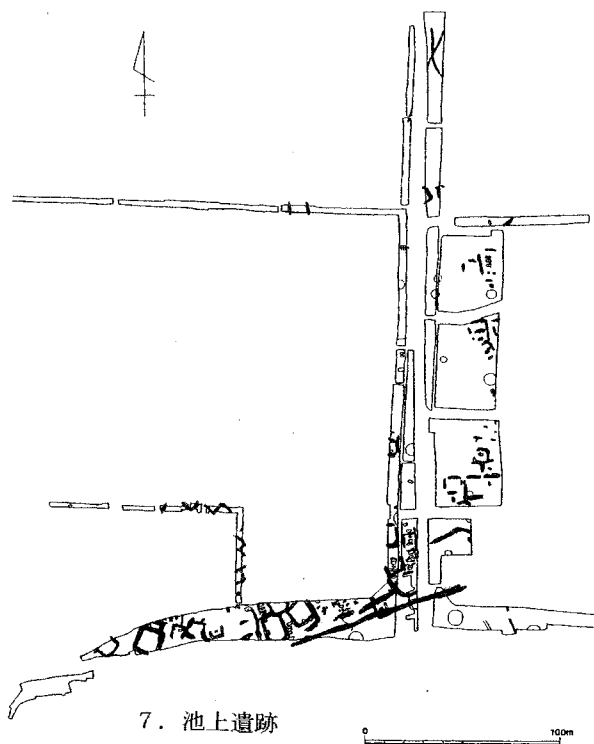
4. 扇谷遺跡



5. 日吉ヶ丘遺跡

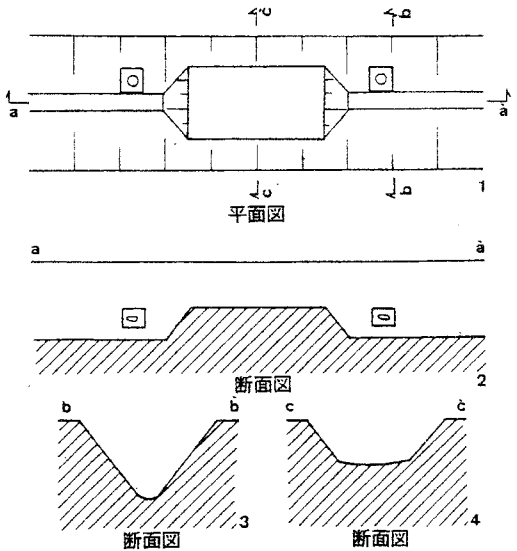


6. 東土川遺跡

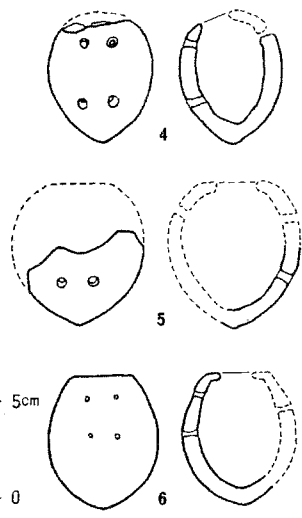


7. 池上遺跡

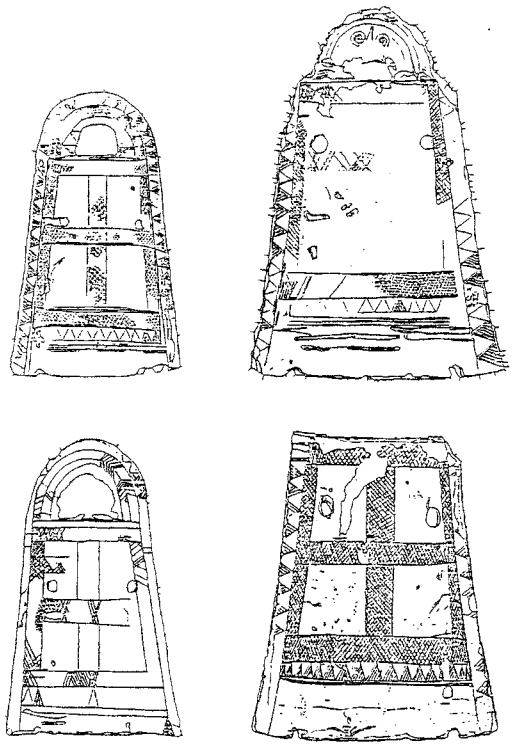
第1図 京都府内の主要な壕を持つ集落遺跡



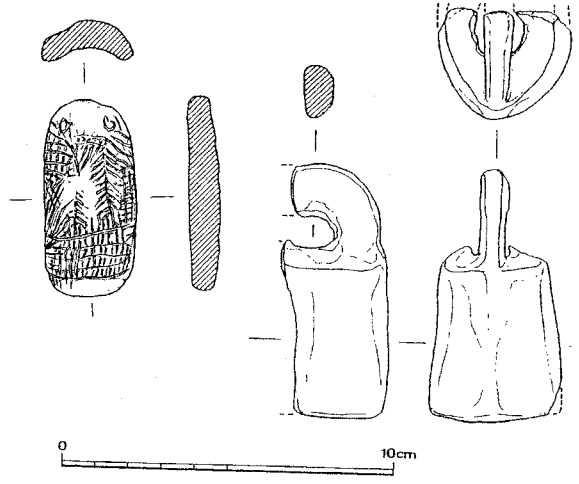
第2図 東土川遺跡壕の入口遺構



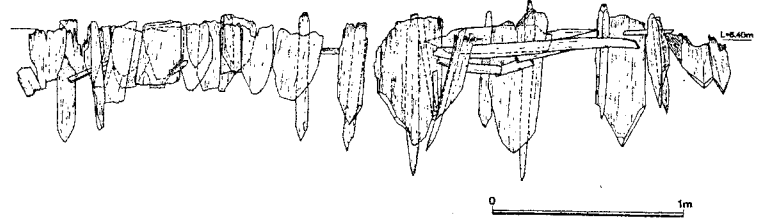
第3図 陶墳  
(1・2 : 途中ヶ丘、3 : 扇谷)



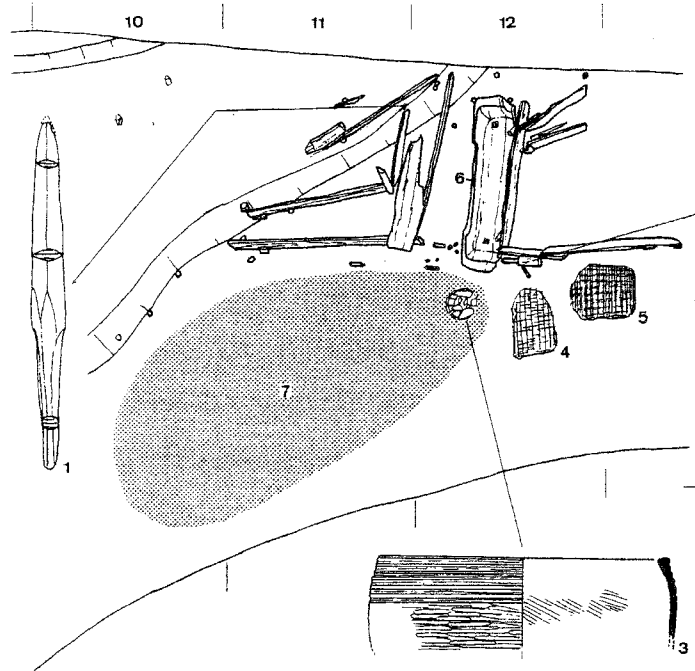
第4図 梅ヶ畑遺跡出土銅鐸



第5図 観音寺遺跡出土セミ形・銅鐸形土製品

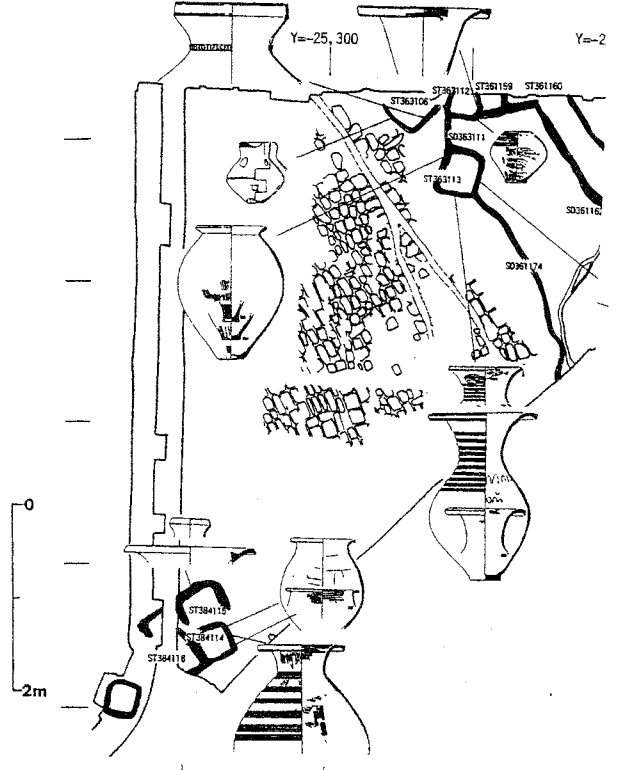


第6図 蔵ヶ崎遺跡検出水路の矢板

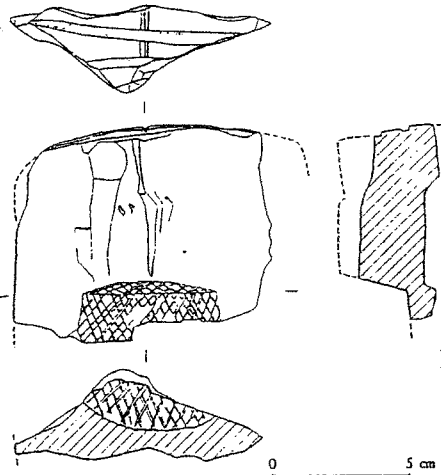


第7図 奈具谷遺跡のトチの実加工場

- 1. 剣形木製品
- 2. 横槌
- 3. 杵
- 4. ザル状の編物
- 5. ミ状の編物
- 6. 槽
- 7. トチの種子集積

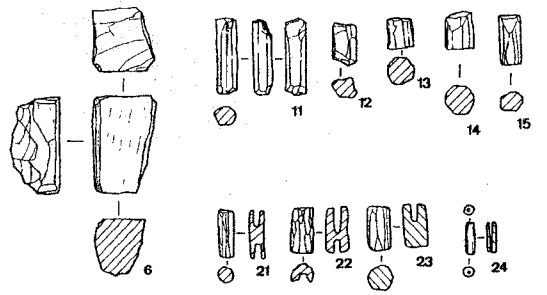


第8図 東土川遺跡の水田遺構

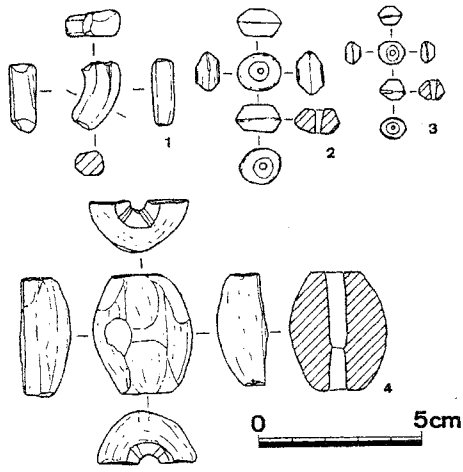


第9図 鶏冠井遺跡出土の銅鑄型

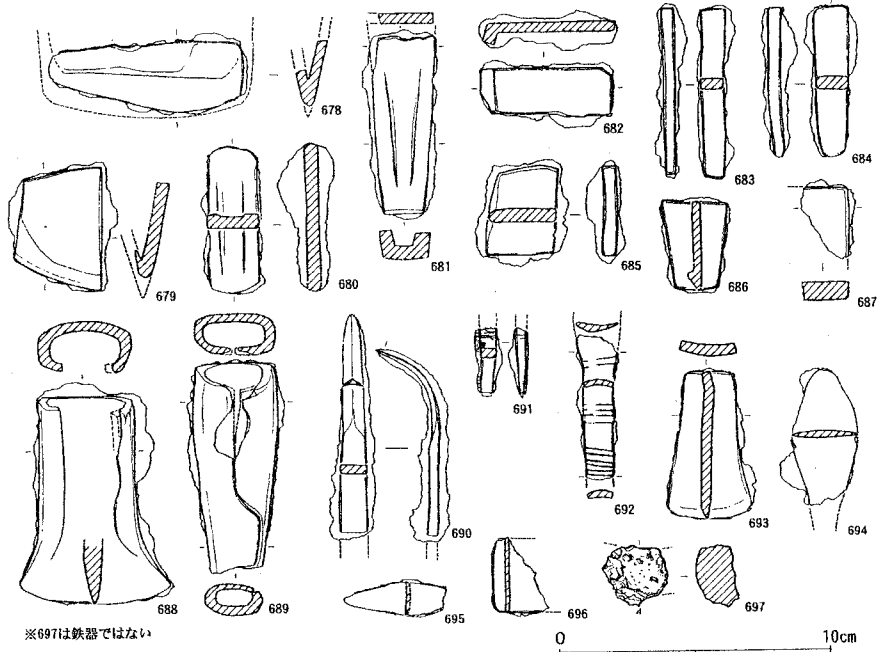
第10図 神足遺跡出土銅劍



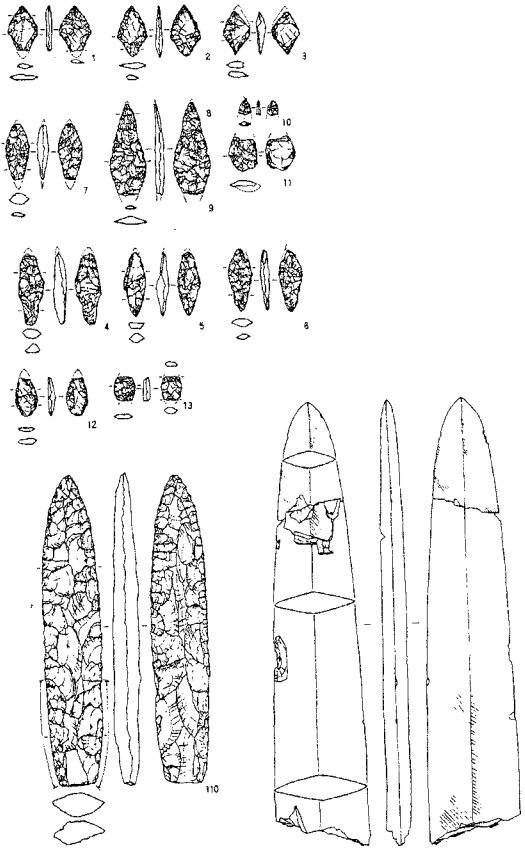
第11図 奈具岡遺跡出土碧玉玉作り関連遺物



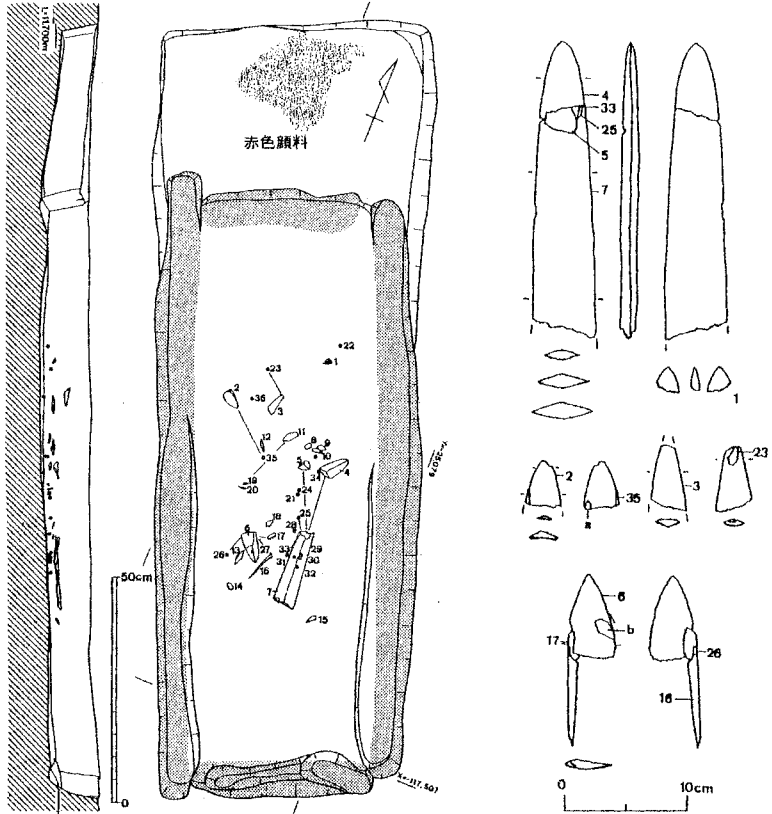
第12図 奈具岡遺跡出土水晶製玉



第13図 日吉ヶ丘遺跡出土鉄器

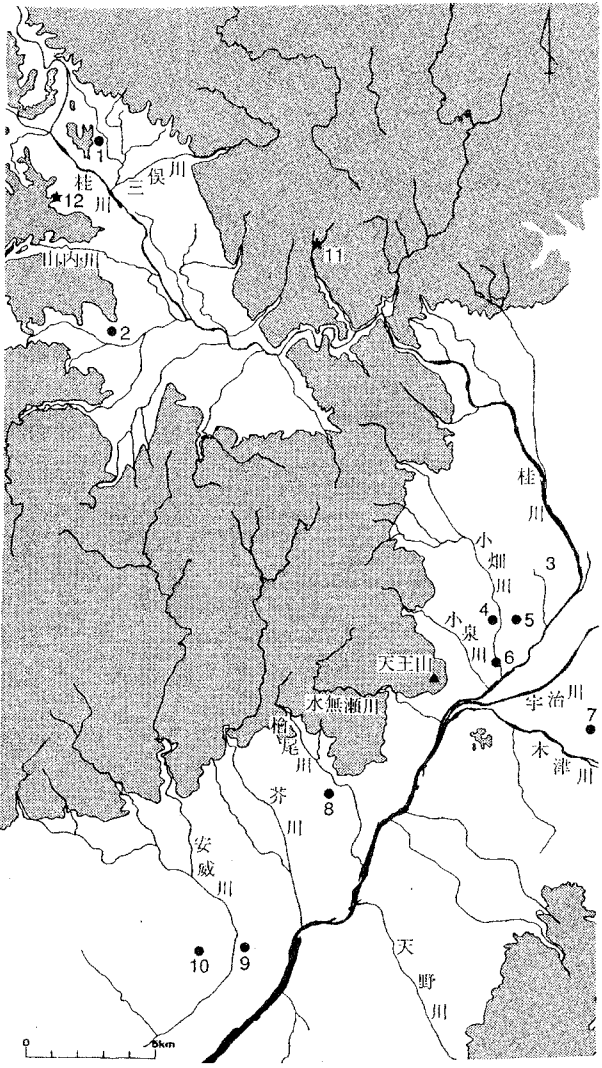


第14図 東土川遺跡出土石製武器



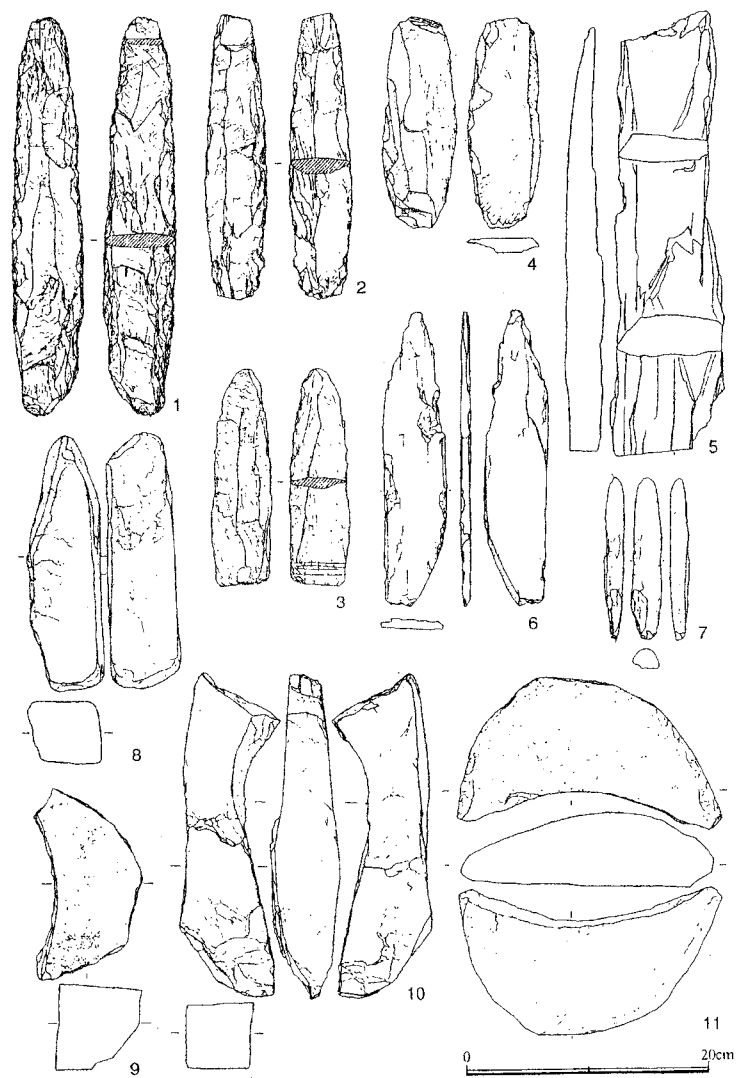
第15図 東土川遺跡のいわゆる戦士墓





第 16 図 粘板岩製石器素材出土遺跡

(1: 地上遺跡、2: 太田遺跡、3: 東土川遺跡、4: 神足遺跡、5: 雲宮遺跡、6: 碓遺跡、7: 市田齊当坊遺跡、8: 安満遺跡、9: 目垣遺跡、10: 東奈良遺跡、11: 水尾硯石産出地、12: 八木石産出地)



第 17 図 粘板岩製石器の未製品および大型石材

(1~2: 神足遺跡、4~5: 東土川遺跡、6~7: 雲宮遺跡、8~11: 太田遺跡)

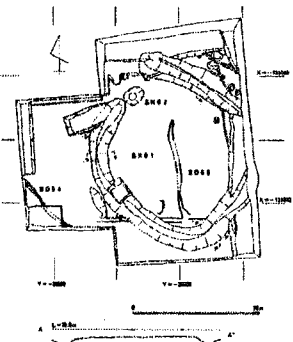
京埋セミナー資料No.0102-312

## 弥生時代の墓制

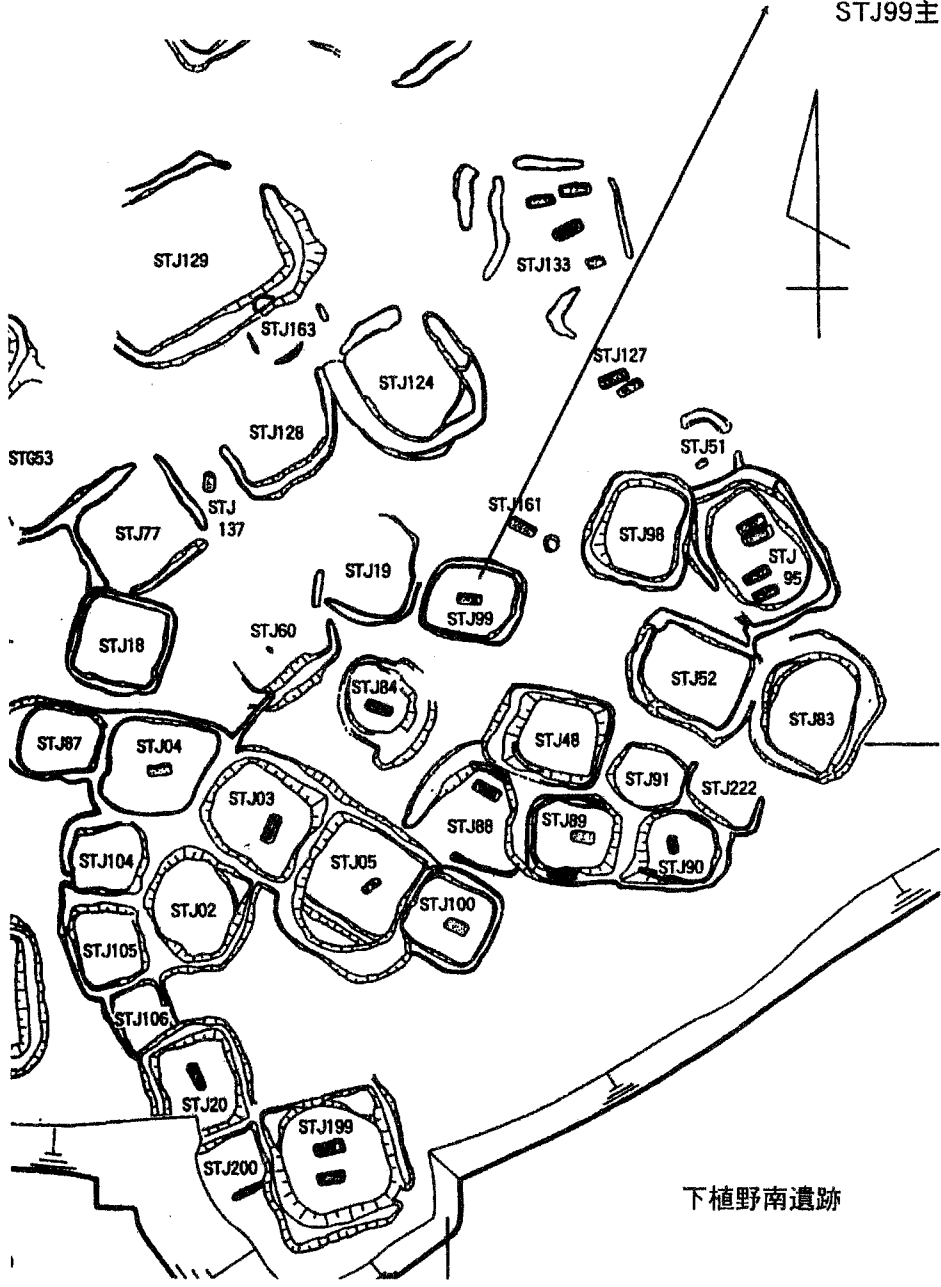
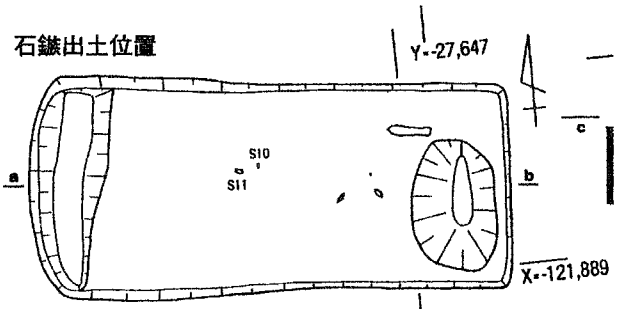
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
調査員 福島 孝行

1. 前期の方形周溝墓と方形台状墓
2. 中期の方形周溝墓の広がり
3. 貼り石方形墳丘墓
4. 戦争犠牲者の墓
5. 後期の変化

山城地域の墓制（1）



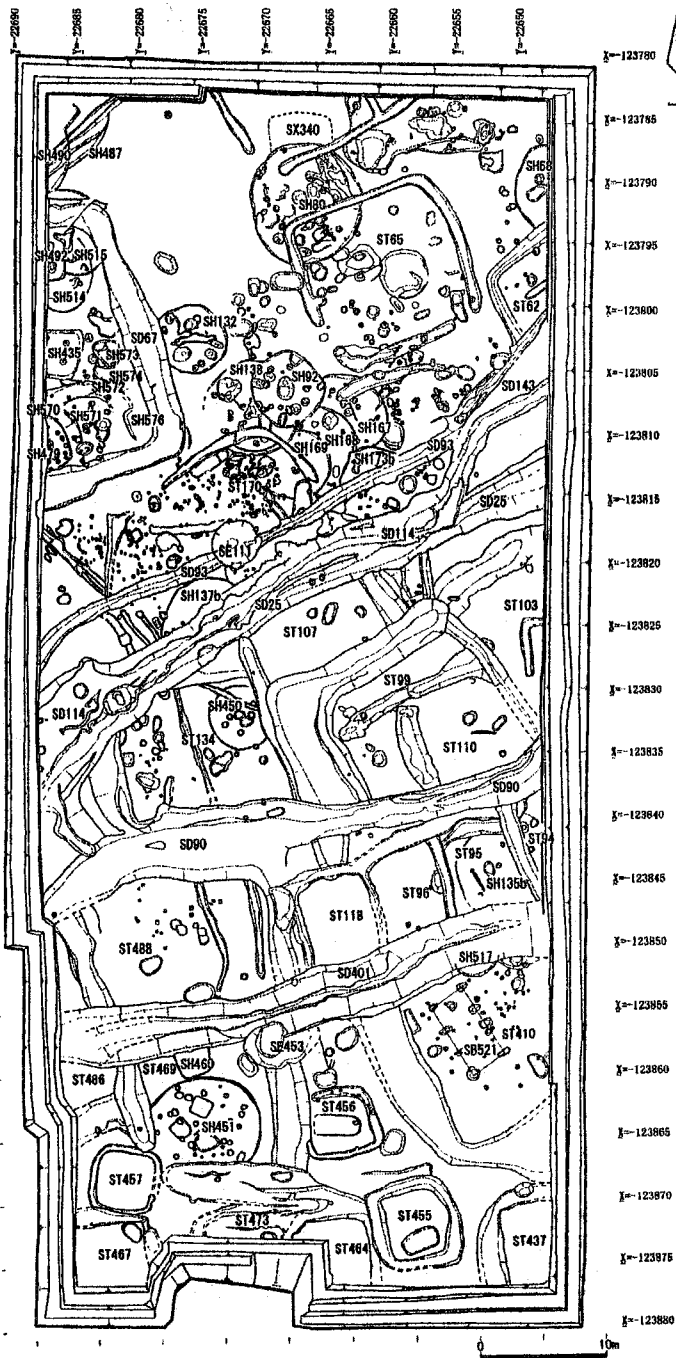
稲葉遺跡



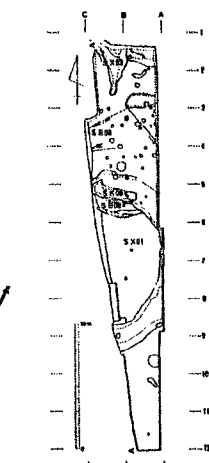
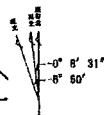
STJ99主体部

下植野南遺跡

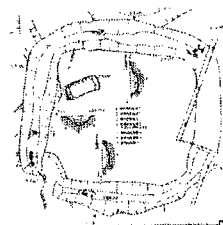
山城地域の墓制 (2)



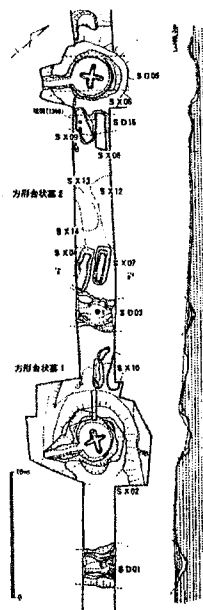
市田齊当坊遺跡



飯岡遺跡  
(丘陵上の方形周溝墓)

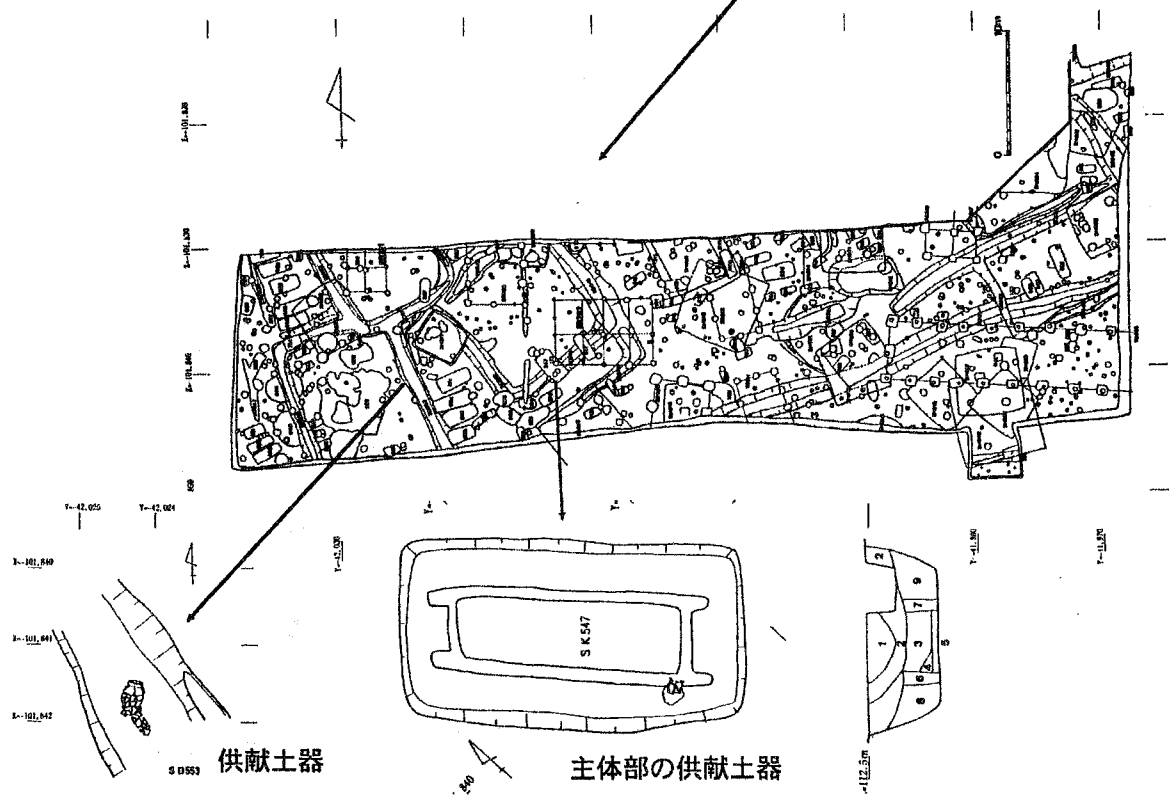
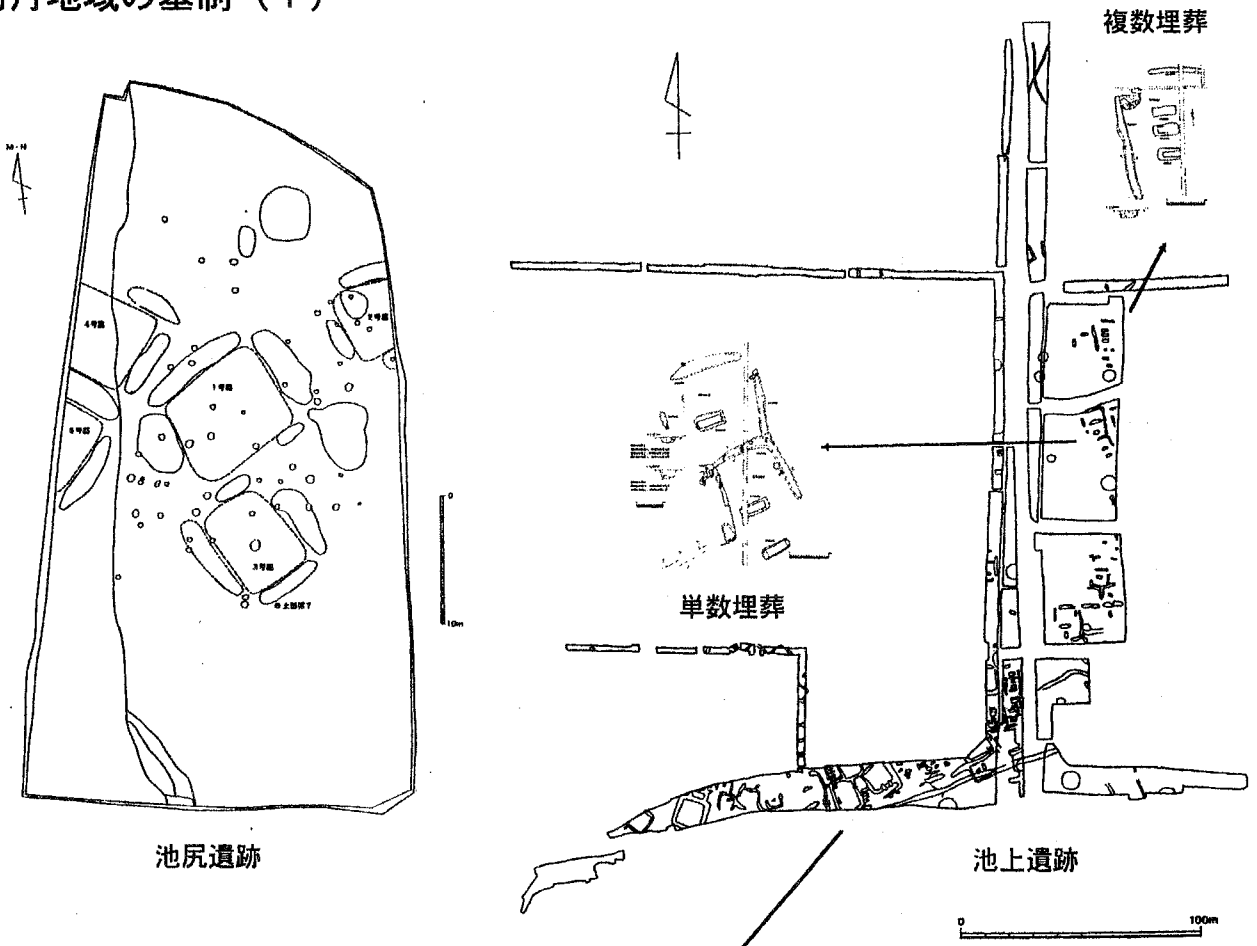


佐山尼垣外遺跡  
(平地の方形周溝墓)

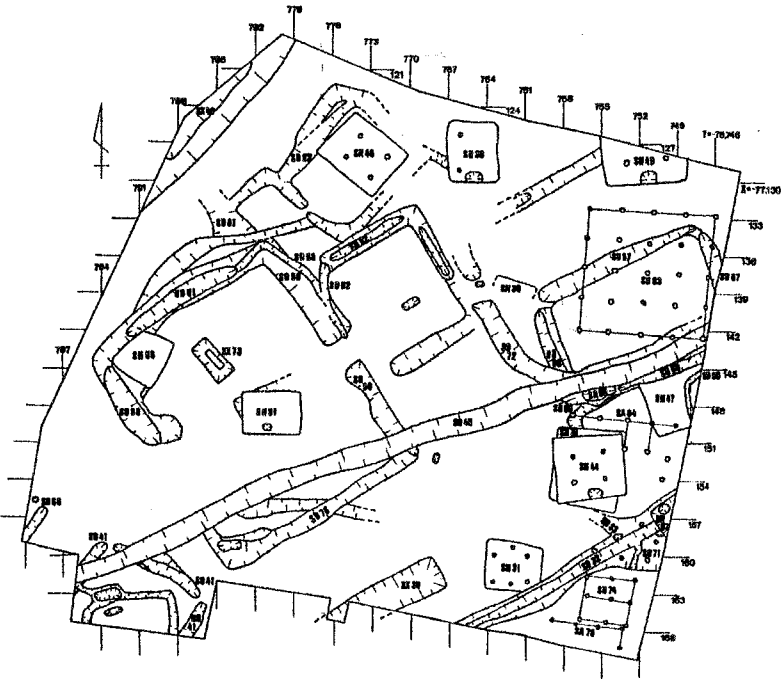


木津城山遺跡  
(丘陵上の方形台状墓)

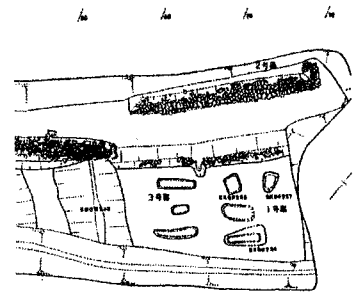
南丹地域の墓制（1）



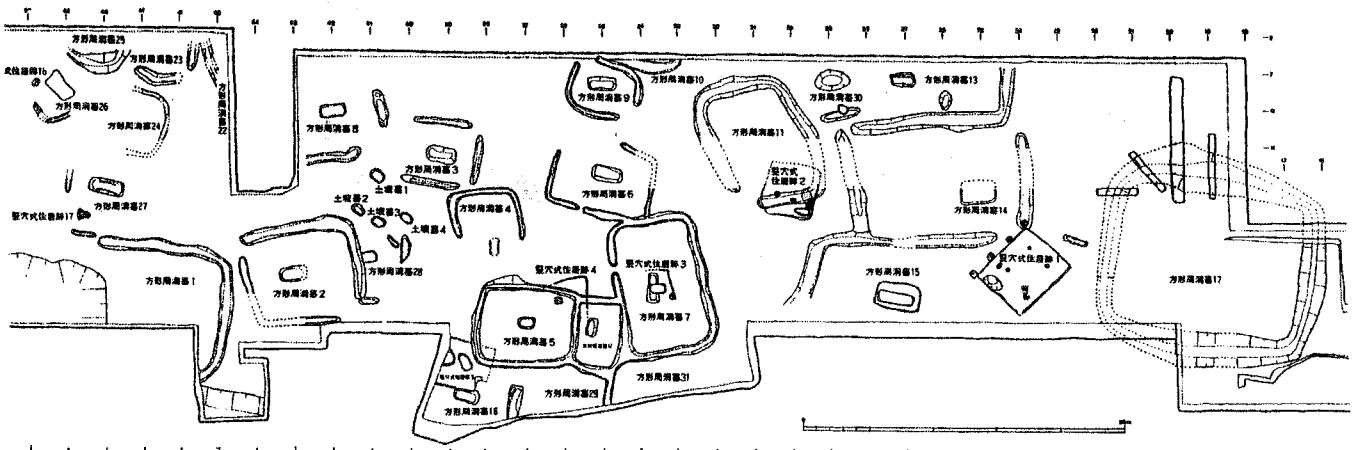
中丹地域の墓制



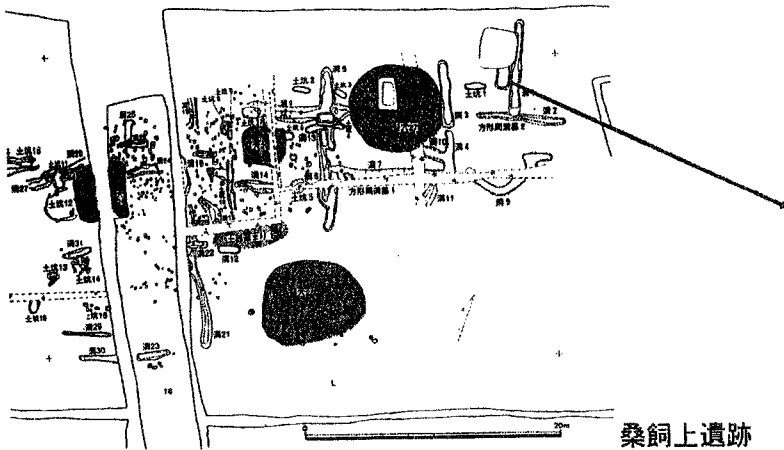
青野西遺跡



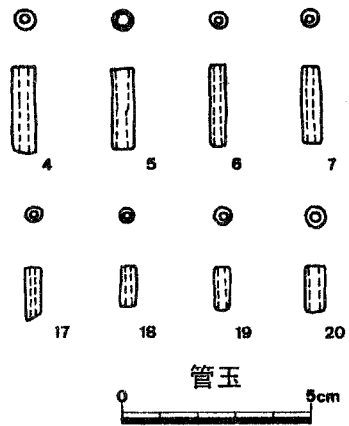
志高遺跡貼り石方形墳丘墓



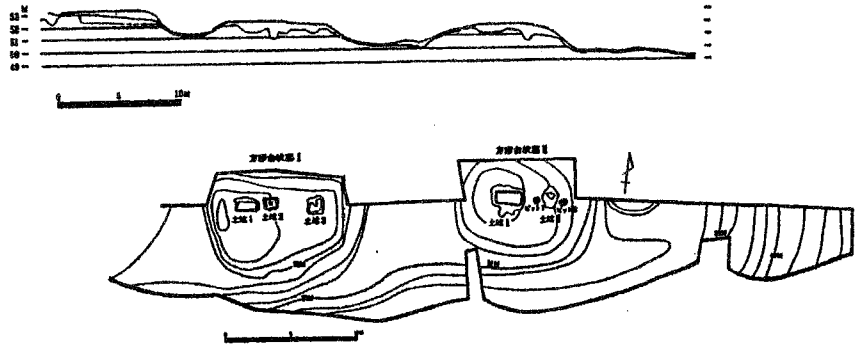
志高遺跡方形周溝墓群



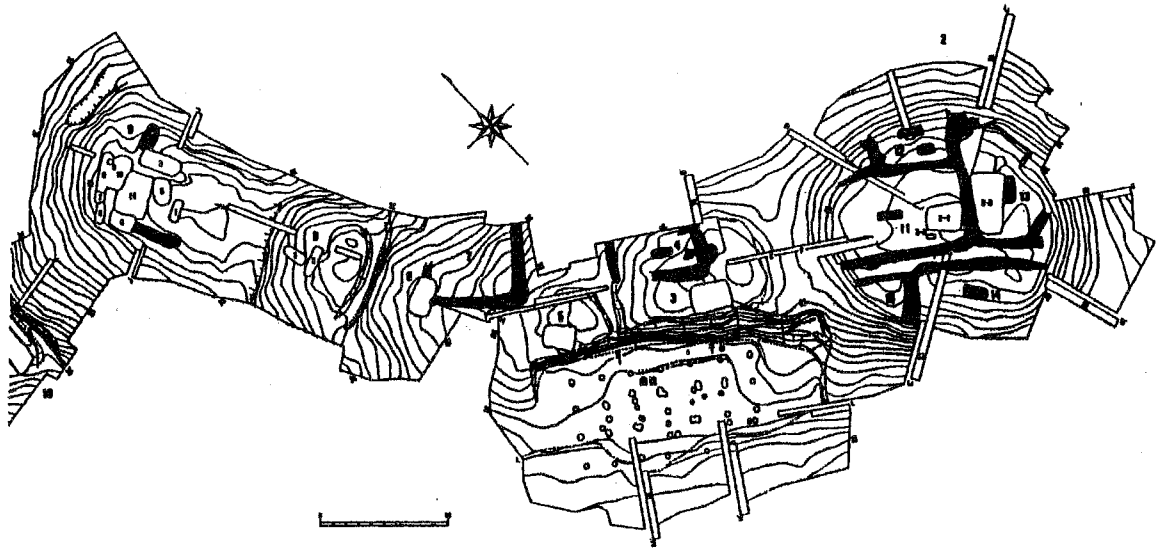
桑飼上遺跡



丹後地域の墓制（1）

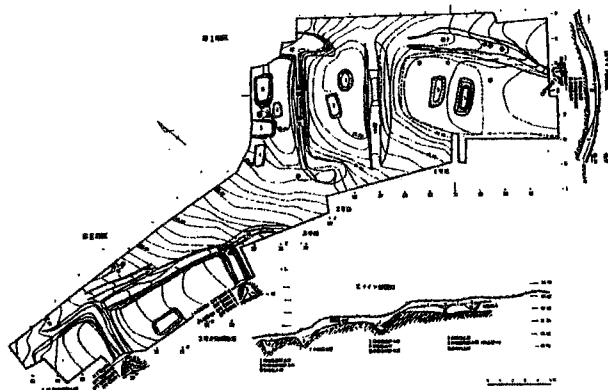


七尾遺跡

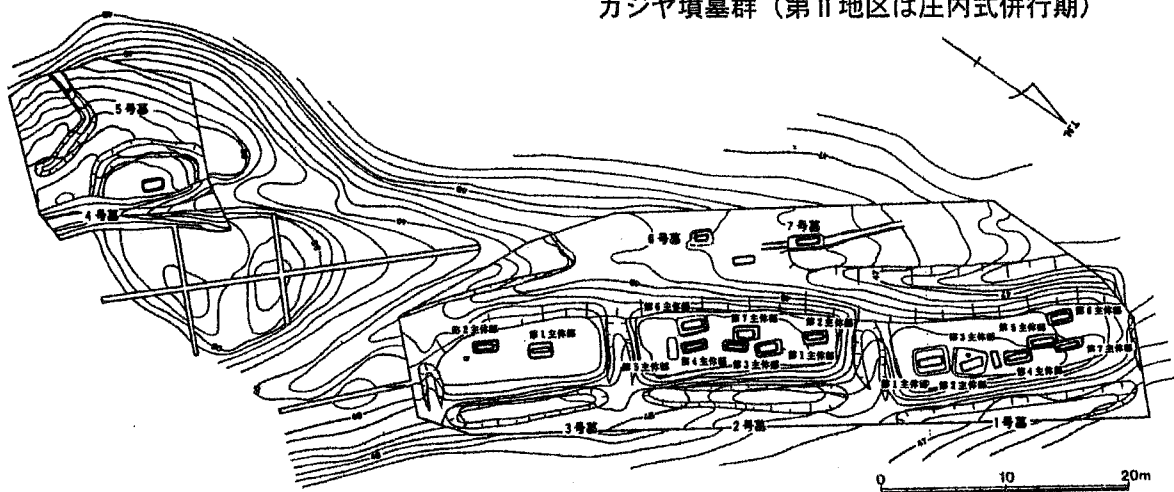


駄坂・舟隠遺跡群

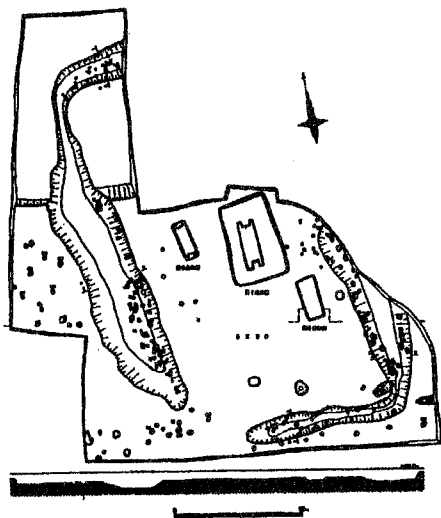
丹後地域の墓制（2）



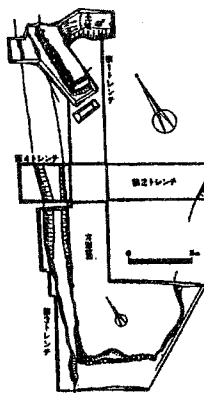
カジヤ墳墓群（第II地区は庄内式併行期）



奈具墳墓群



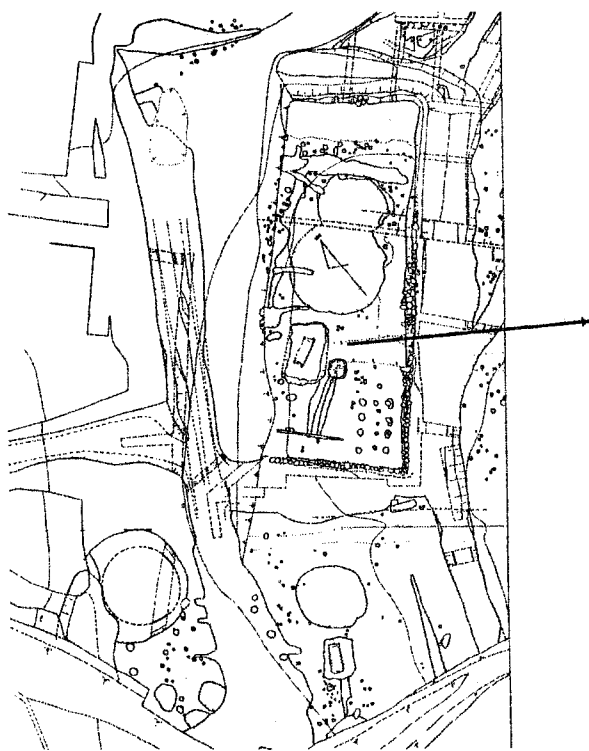
寺岡遺跡



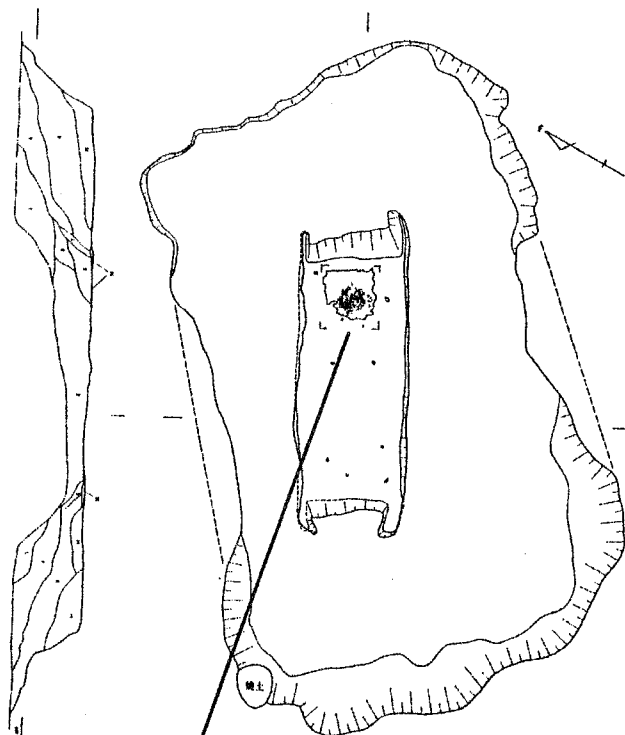
奈具岡遺跡



丹後地域の墓制 (3)

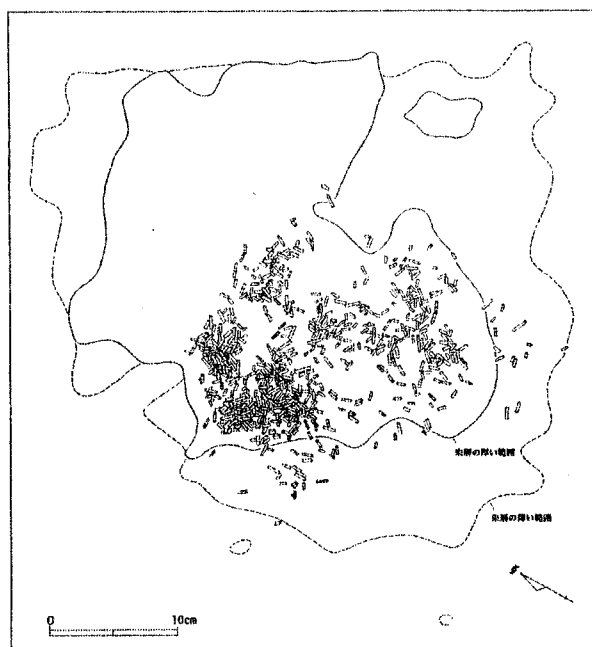


日吉ヶ丘遺跡  
(貼り石方形墳丘墓と方形周溝墓)



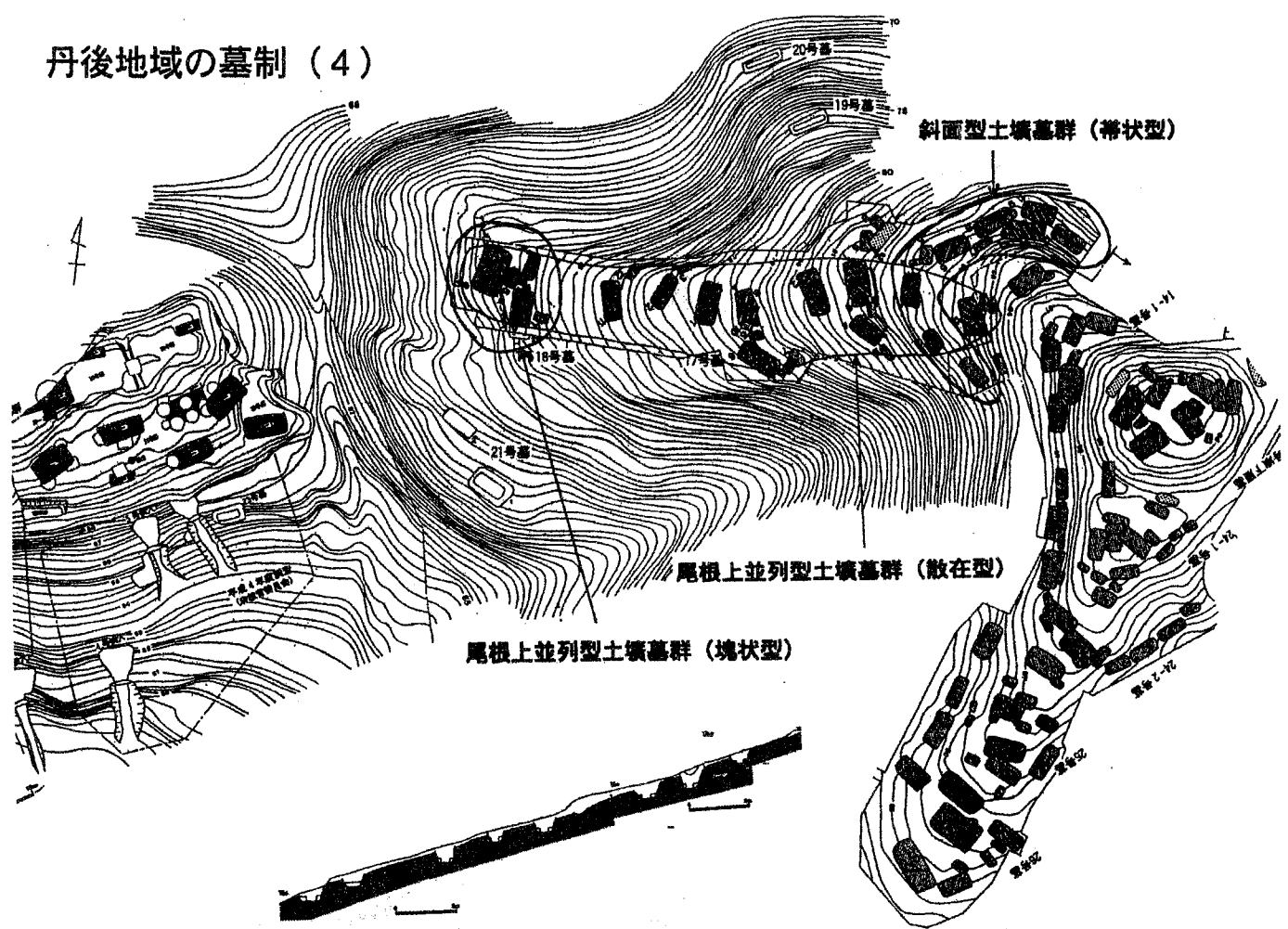
貼り石方形墳丘墓の主体部

- 1. 埋戻層状土 (黄褐色土・黒糖・土砂片・炭化物を含む)
- 2. 埋戻層状土 (黄褐色土を若干含む)
- 3. 埋戻層状土 (黄褐色土を若干含む)
- 4. 埋戻層状土 (黄褐色土を多く含む)
- 5. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 6. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 7. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 8. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 9. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 10. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 11. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 12. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 13. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 14. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 15. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 16. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)
- 17. 埋戻層状土 (黄褐色土を少量含む)

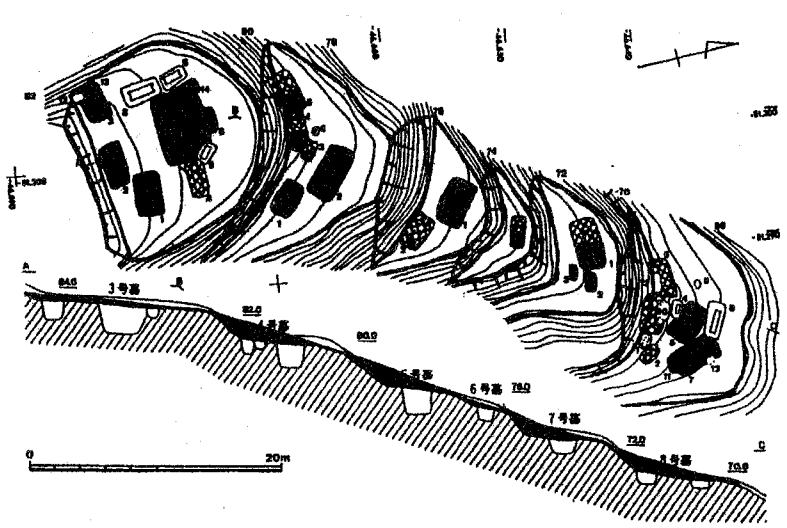


管玉の出土状況

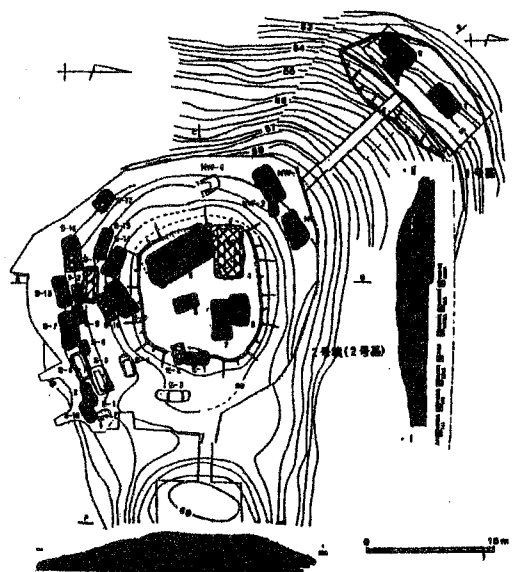
丹後地域の墓制 (4)



左坂墳墓群 (黒塗: 高野編年1-最古~古、斜格子: 同1-新、斜線: 同2-古、| 本線: 同2-新)



三坂神社墳墓群 (尾根型卓状墓)

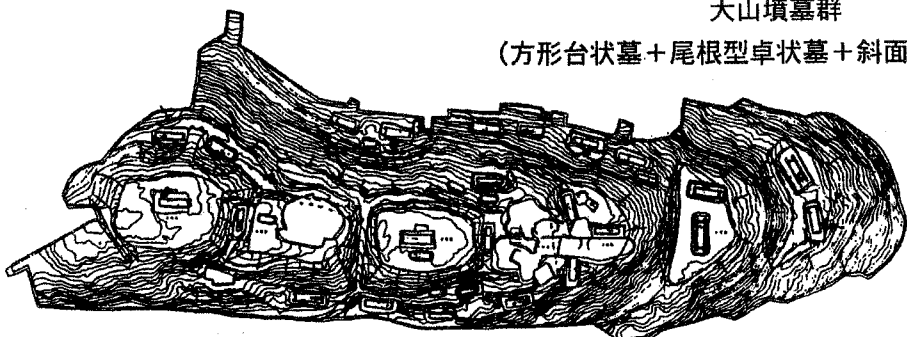


今市墳墓群 (丘頂型卓状墓+斜面型土墳墓群+尾根型卓状墓)

丹後地域の墓制 (5)

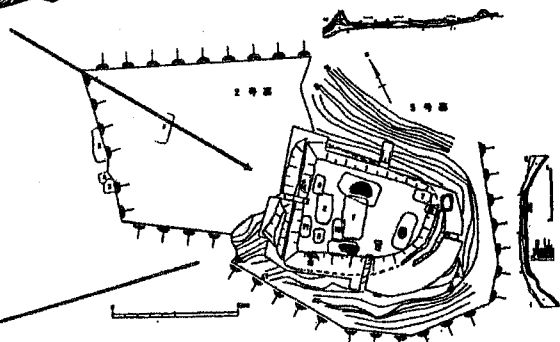
大山墳墓群

(方形台状墓+尾根型卓状墓+斜面型土壙墓群)



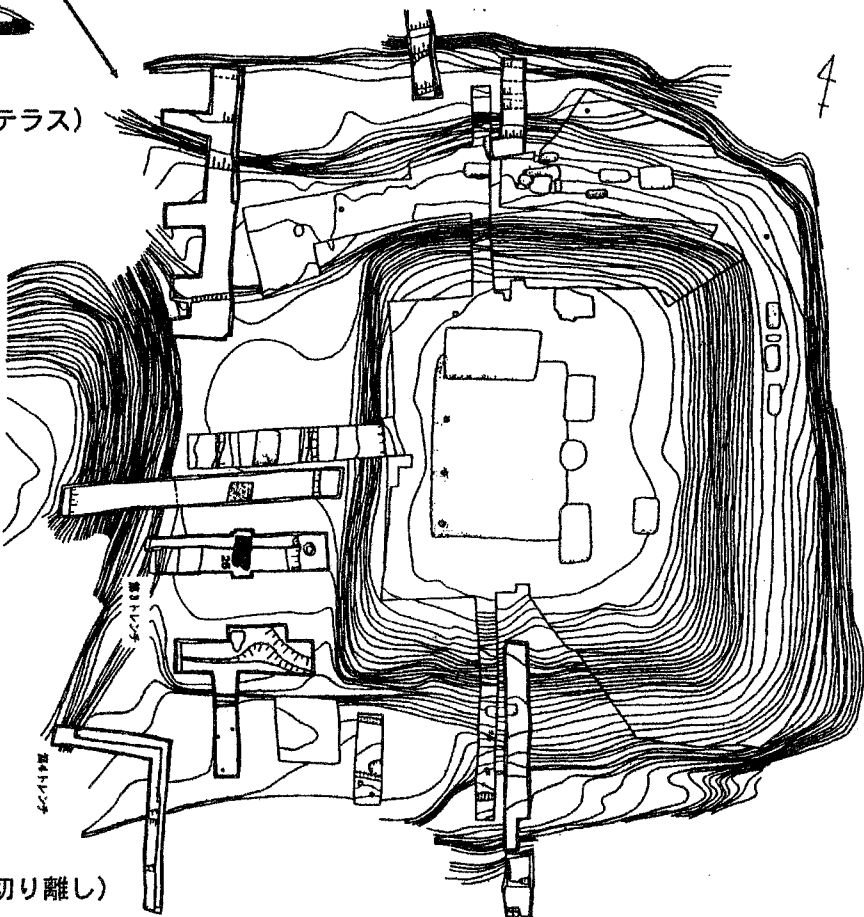
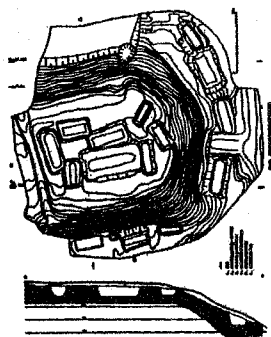
古天王墳墓群

(方形台状墓と尾根型卓状墓の折衷型台状墓)



金谷1号墓

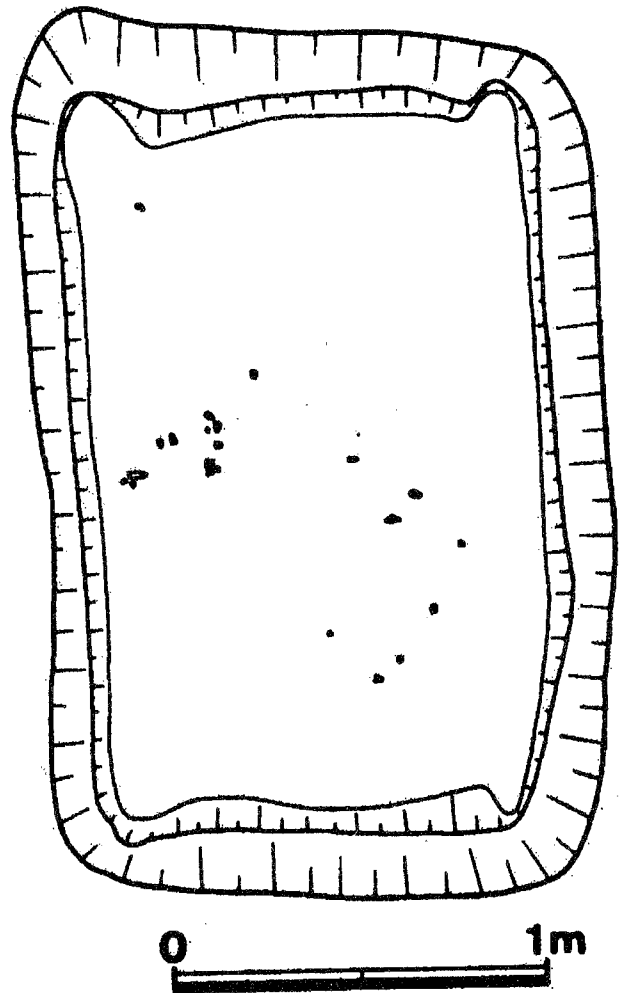
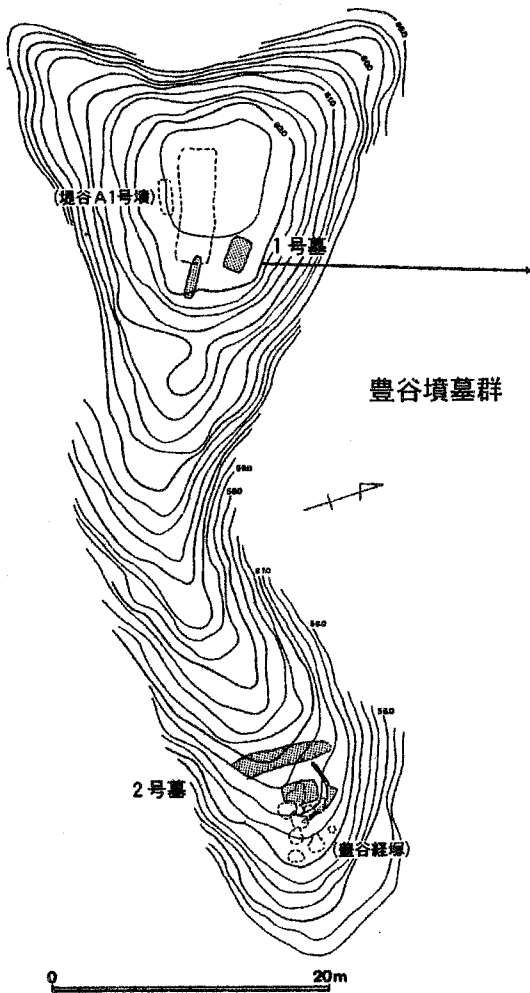
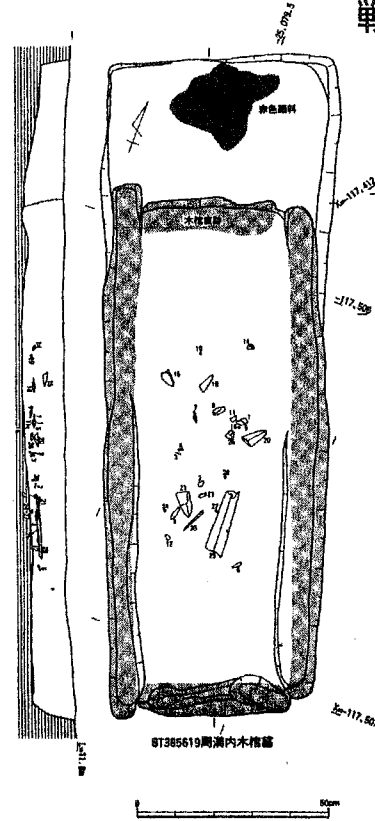
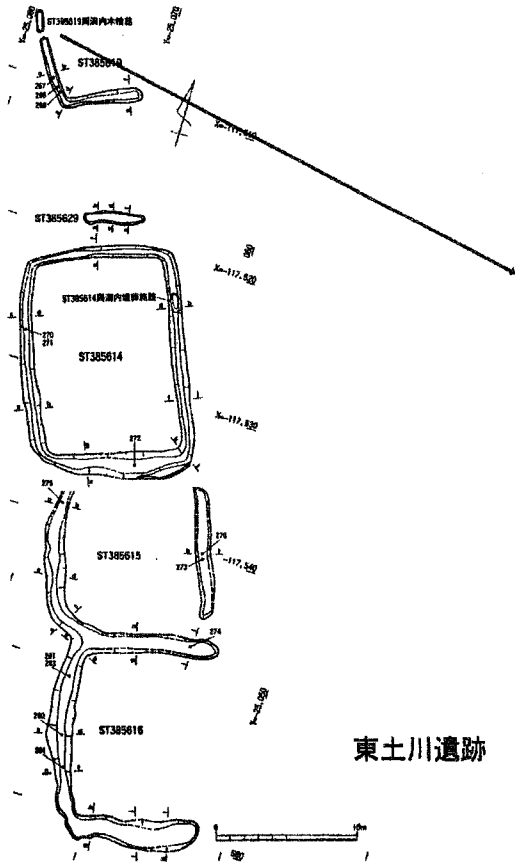
(折衷型台状墓の方形化+周辺埋葬用テラス)



赤坂今井墳丘墓

(金谷型台状墓の大型化+丘陵切り離し)

戦争犠牲者の墓



(× ㄷ)

## 弥生時代の京都

芦屋市教育委員会  
文化財担当主査 森岡 秀人

### 1. はじめに

与えられたテーマは、表題に掲げた「弥生時代の京都」であるが、もう少しグローバルな視点から、これまでの弥生時代について一貫して描かれてきた社会像・歴史像に関して、再検討を加えてみたい。京都の弥生文化・弥生社会もけっして例外ではなく、新しい視点から考え直すべき調査成果もあるだろう。そうした作業の手助けとなれば、幸いである。

### 2. 弥生時代像を見直す

#### (1) 年代研究の視点から

- ☆不安定になった弥生時代の実年代 ☆私の最近の年代観の変容について
- ☆近畿地方のAMS法炭素年代と年輪年代法（考古年代との整合性）
- ☆年代定点をなすか否か、検討すべき二、三の京都府下の資料

#### (2) 弥生時代は一貫して首長制社会なのか

- ☆通説の中での弥生首長 ☆かつての富の蓄積論と首長 ☆灌漑農耕の協業と首長権確立
- ☆大型建物・記念物と農業共同体首長層の成長 ☆首長制社会容認は実態より高い評価
- ☆弥生中期末までは族長制下にリーダーの存在 ☆リーダーからチーフ、チーフダムへ

#### (3) 三時期区分、五時期区分は弥生社会の順調発展過程を裏付けられるか

#### (4) 「真正弥生時代」の提唱（コアから外れた部分の歴史的評価）

- ☆弥生文化には厳密な時空間の枠組みが求められている ☆主要器種も限定範囲での所産
- ☆集落の継続と断絶 ☆流通の跛行と金属器の長距離移動 ☆物品貨幣の変化

IV期からV期への遺跡数の激減 再生的な動き 新しい時代に向けての自主的な再編活動

☆原始有文土器の解体から無文土器への動き

東アジア規模で進行した無文土器への転向とその遅早 主導海路の移行（日本海ルート）

☆土器の様式構造の組み換え

土器製作技術の錯綜 土器組成・食膳様式の変化 庄内式・布留式を準備できた社会

☆方形周溝墓群を要とした墓地構造・墓数の変化

☆銅鐸祭祀の変質

銅鐸は継続し、弥生時代たらしめたが、時代の要請にしたがい大きく変化して存続

### 3. 真正な弥生時代の終焉

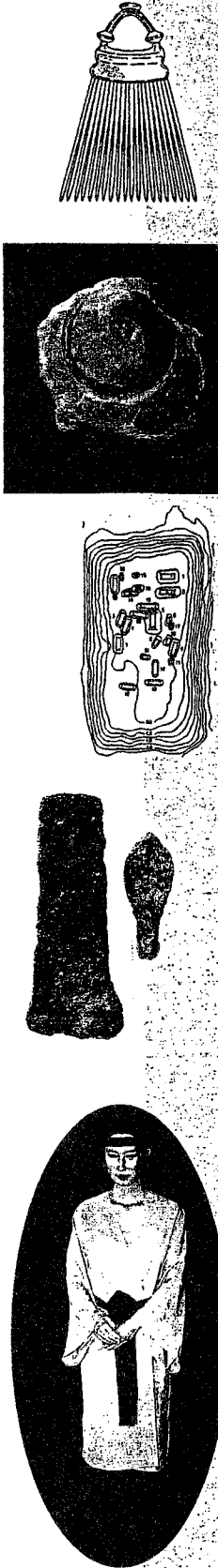
- ☆新しい社会階梯ともいうべき弥生後期 ☆「王」を誕生させることのできなかつた社会
- ☆倭人伝の「旁国」以前と以後 ☆旧来の時代区分を捨てた社会進化段階の設定が必要

### 4. まとめ

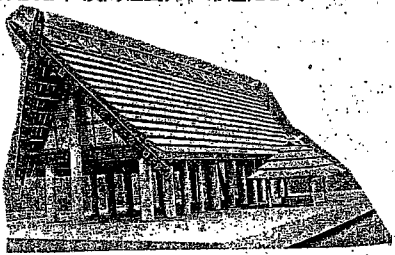
前期 (前半) (後半) (末)	中期 (前半) (後半) (末)	後期 (初) (前半) (後半)	終末期
プロト弥生	真正弥生時代	変革期	エビ弥生 古墳早期
縄文土器年代親	金属器(大陸系) 年代親 I		金属器(大陸系)年代親 II

本シンポジウムが対象としている小期  
当該期概念図「真正弥生時代」の終わり [森岡 2003]

## 弥生時代と東アジア関連年表



紀元前	B.C.	前葉	中葉	後葉	後期	終末期	B.C.	戦国	秦	前漢	漢	新	後漢	漢	三	国	
		(森岡編年)															
		I-3 様式															
		I-4 様式															
		II-1 様式															
		II-2 様式															
		II-3 様式															
		III-1 様式															
		III-2 様式															
		IV-1 様式															
		IV-2 様式															
		IV-3 様式															
		IV-4 様式															
		V-1 様式															
		V-2 様式															
		V-3 様式															
		V-4 様式															
		V-5 様式															
		V-6 様式															
		VI-1 様式															
		VI-2 様式															
		VI-3 様式															
		古墳時代前期 布留1 様式															



(森岡作成年表を改変)

(兵庫県教育委員会・新宮町教育委員会2003)

[高槻市教委1996][森岡 1999 改変][森岡 2005 追加][大阪府弥生博1998]他

(A)

(表1) 変化してきた弥生時代の年代観

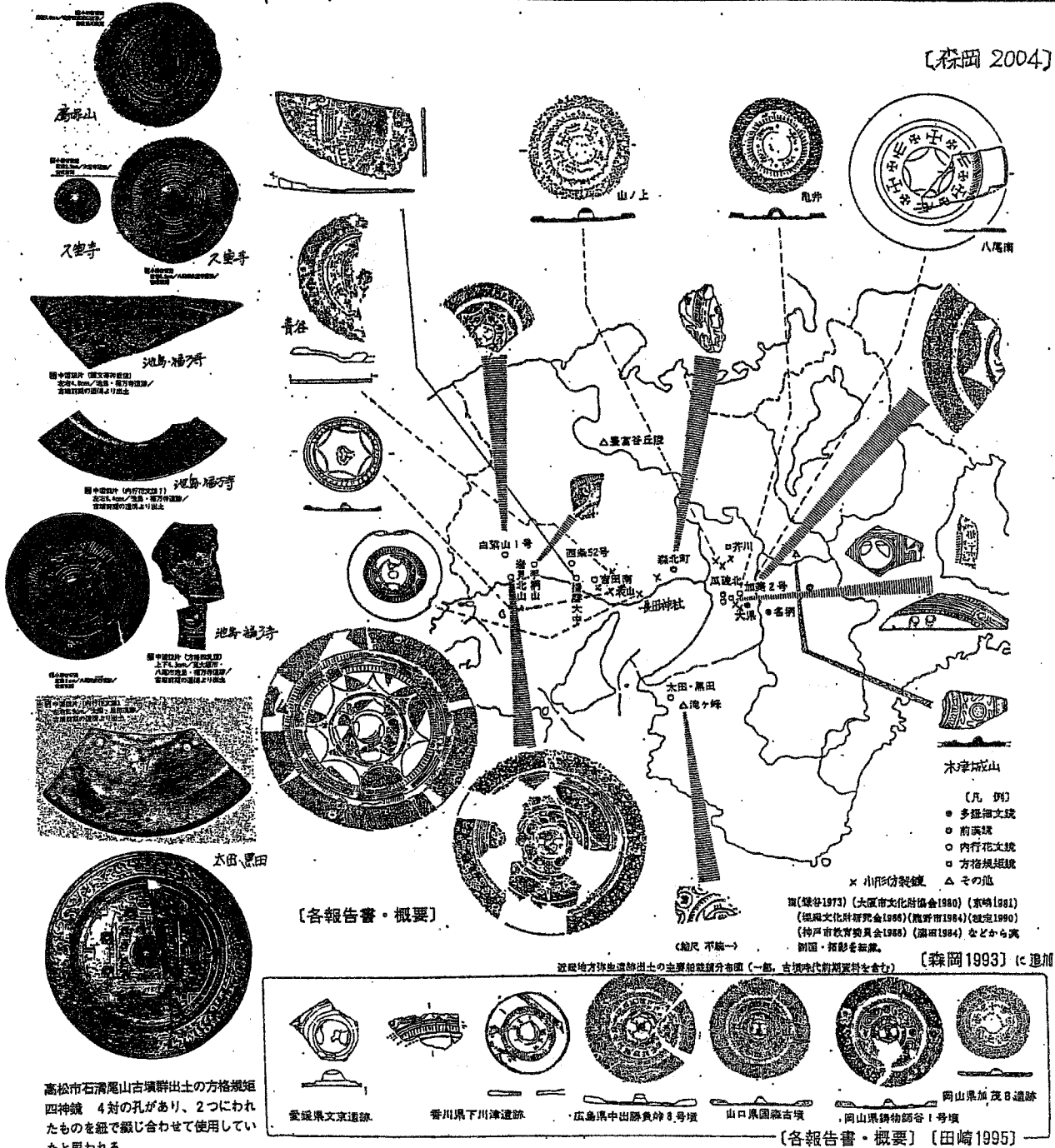
弥生時代の前期・中期・後期の年代的な位置や長さは、この30年の研究の進展で大幅に変わった。AMS法による放射性炭素<sup>14</sup>C年代は、その始まりが中国の殷や西周とふれあう紀元前10世紀前後の古さを示し、考古学界に波紋を呼んでいる。表中のI~VIは考古学の土器分類を示す。作成：森岡秀人

[森岡 2005]

	1000	900	800	500	400	300	200	100	B.C. 1	A.D. 100	200	300	
中国王朝		西周											
従来の教科書年代観				縄文				前期			中期		古墳
近畿地方の年代観'80年代				縄文				II	III	IV		古墳	
森岡秀人の年代観'84年				縄文				II	III	IV		古墳	
森岡秀人の年代観'98年				縄文				II	III	IV		古墳	
名取入舟の年代観'80~'90年代		縄文		先I	I		II	III	IV			古墳	
年輪年代復原モデル		縄文		I		II	III		IV			古墳	
AMS炭素14年代	縄文晩期前半		先I(縄文晩期後半)			II	III		IV			古墳	
AMS法の5期区分	縄文晩期前半		早期		前期			中期				古墳	

(B)

[森岡 2004]





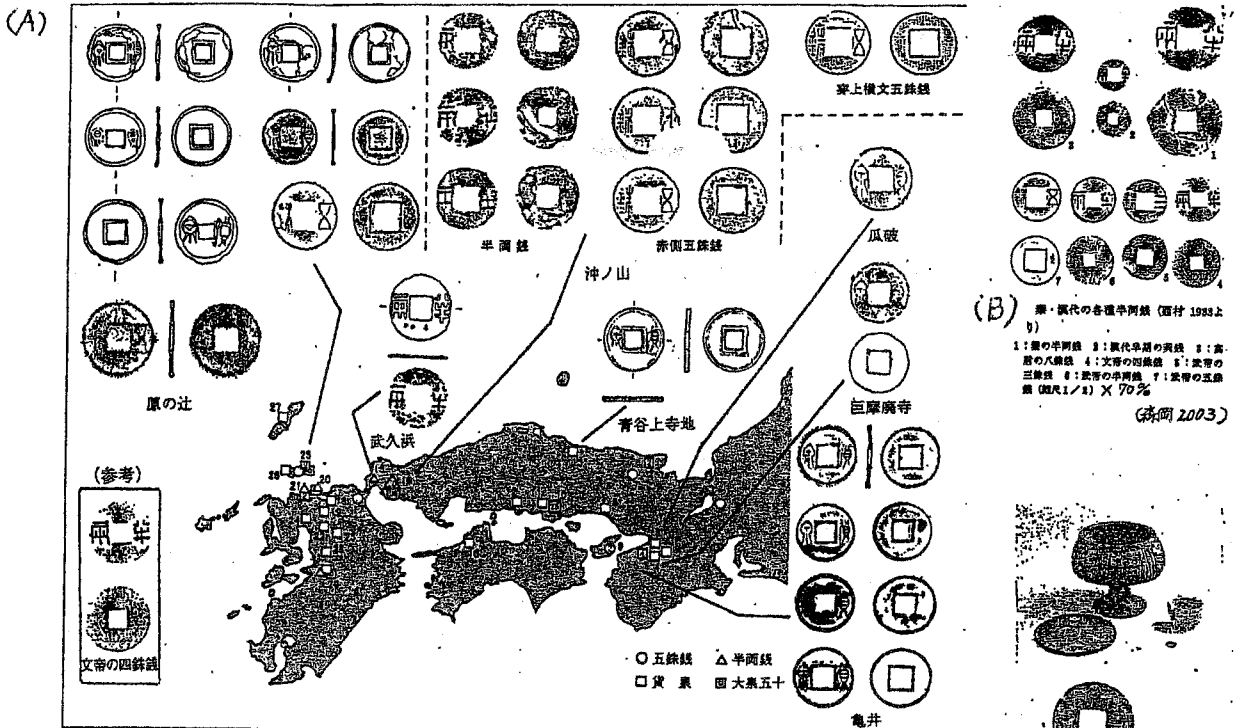
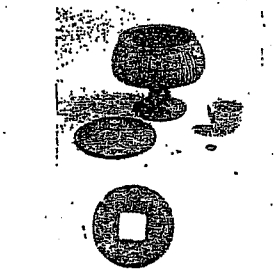


図 西日本弥生遺跡出土の中国銭貨とその様相の一部  
 (記号は主要銭種、記号内数字は出土枚数、数字は遺跡番号<省略>を示す。実測図・拓影の縮尺1/2) [森岡 2005]  
 (各報告書・論文・報文より。森岡2003・2004を合成改変)

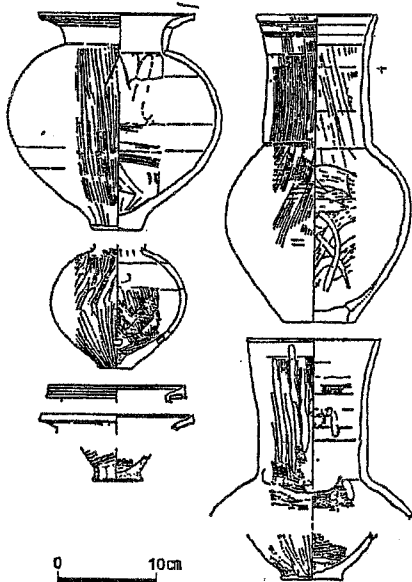
(B) 彌・漢代の各種半兩銭 (西村 1983上  
 下)  
 1: 漢の半兩銭 2: 漢代早期の夷銭 3: 高  
 麗の八兩銭 4: 文帝の四銖銭 5: 武帝の  
 五銖銭 6: 武帝の半兩銭 7: 武帝の五銖  
 銭 (縮尺1/1) X 70%



(C) 瓜破遺跡の土器と貨泉

(大阪市歴史博物館)

(D)



(E)

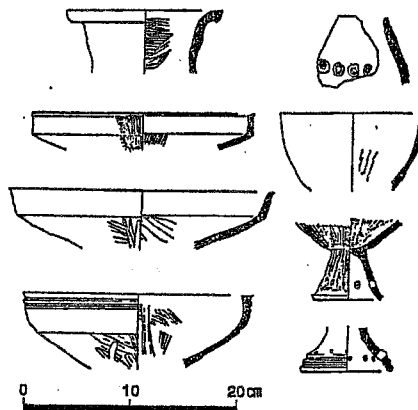
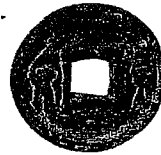
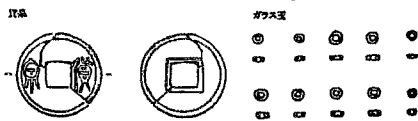
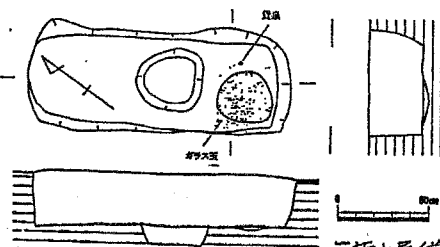


図4 八尾市亀井遺跡出土の貨泉(右上)と伴出  
 した弥生土器(右 原岡一寺川史郎・尾谷雅彦編  
 『亀井・城山』1980年)

図5 東大阪市巨摩麻寺遺跡出土の貨泉(左上)  
 と伴出した弥生土器(原岡一玉井功・井藤暁子・  
 小野久隆ほか『巨摩・瓜生堂』本文編、1982年)

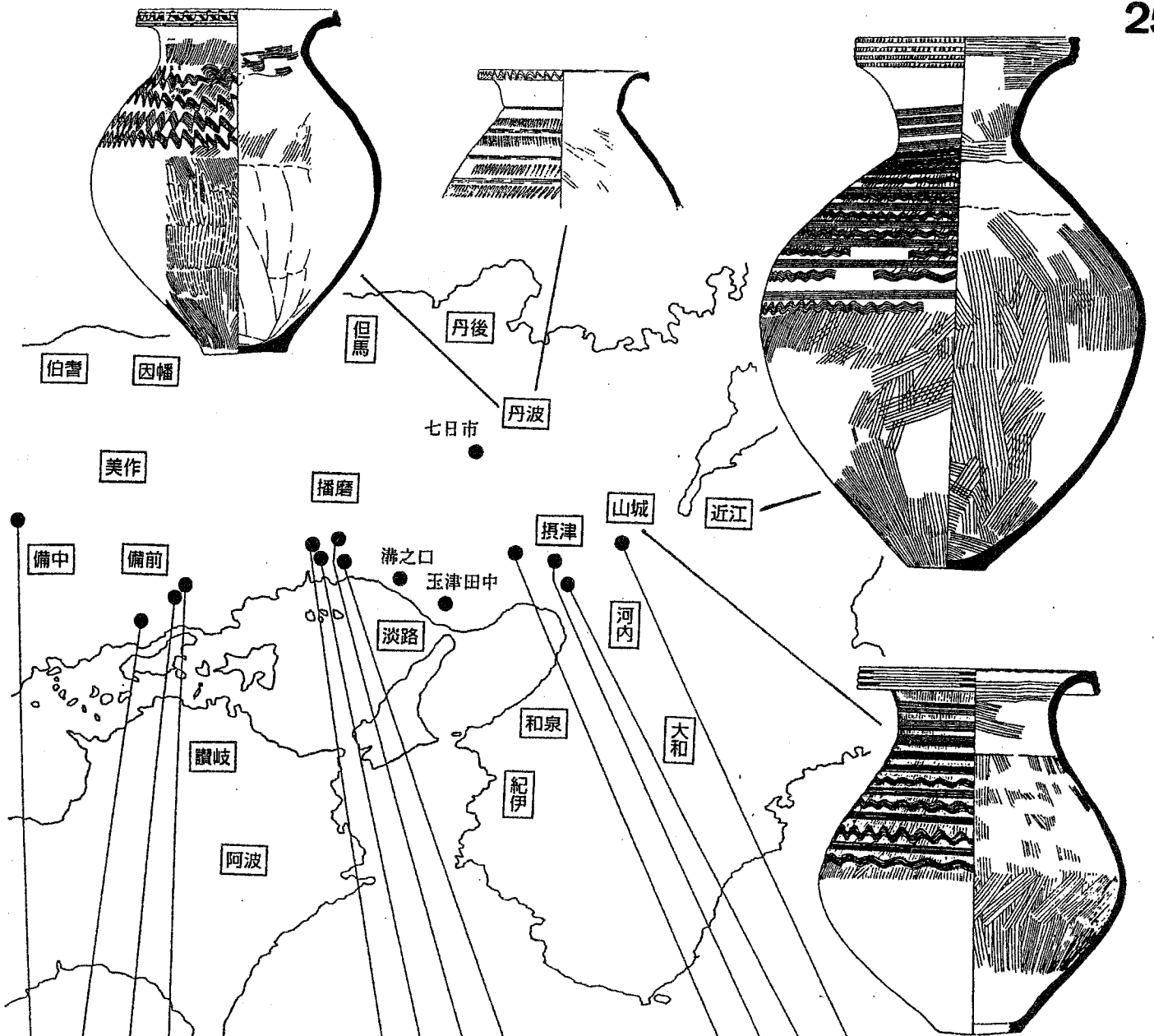
(森岡1998)

(F)

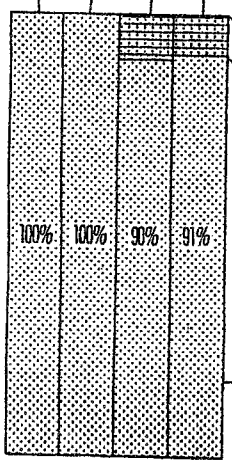


三坂七尾(前橋市)(岡部・比佐・片多2004)

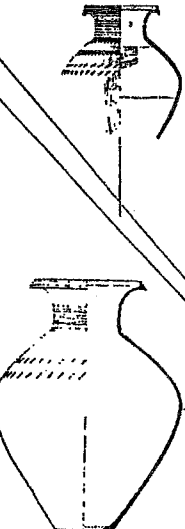
64号墓(上1/20)と出土貨泉(上1/1)、ガラス玉の一部(上1/1)



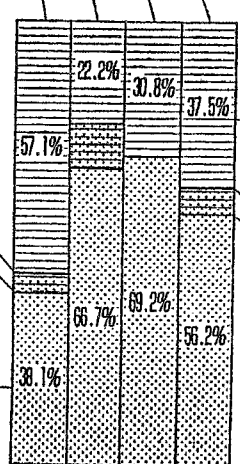
列点紋十櫛描紋土器



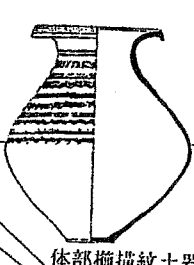
山根屋遺跡  
奥坂遺跡  
百間川兼基遺跡  
門前池遺跡



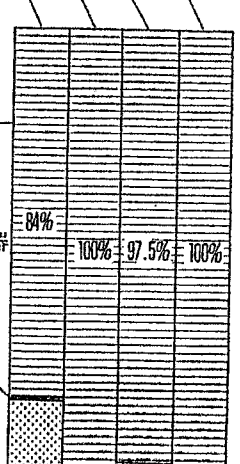
体部列点紋土器



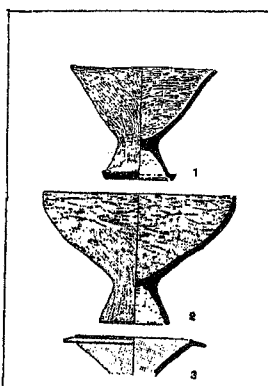
尾崎遺跡  
養久山・前地遺跡  
寄井遺跡  
川島遺跡



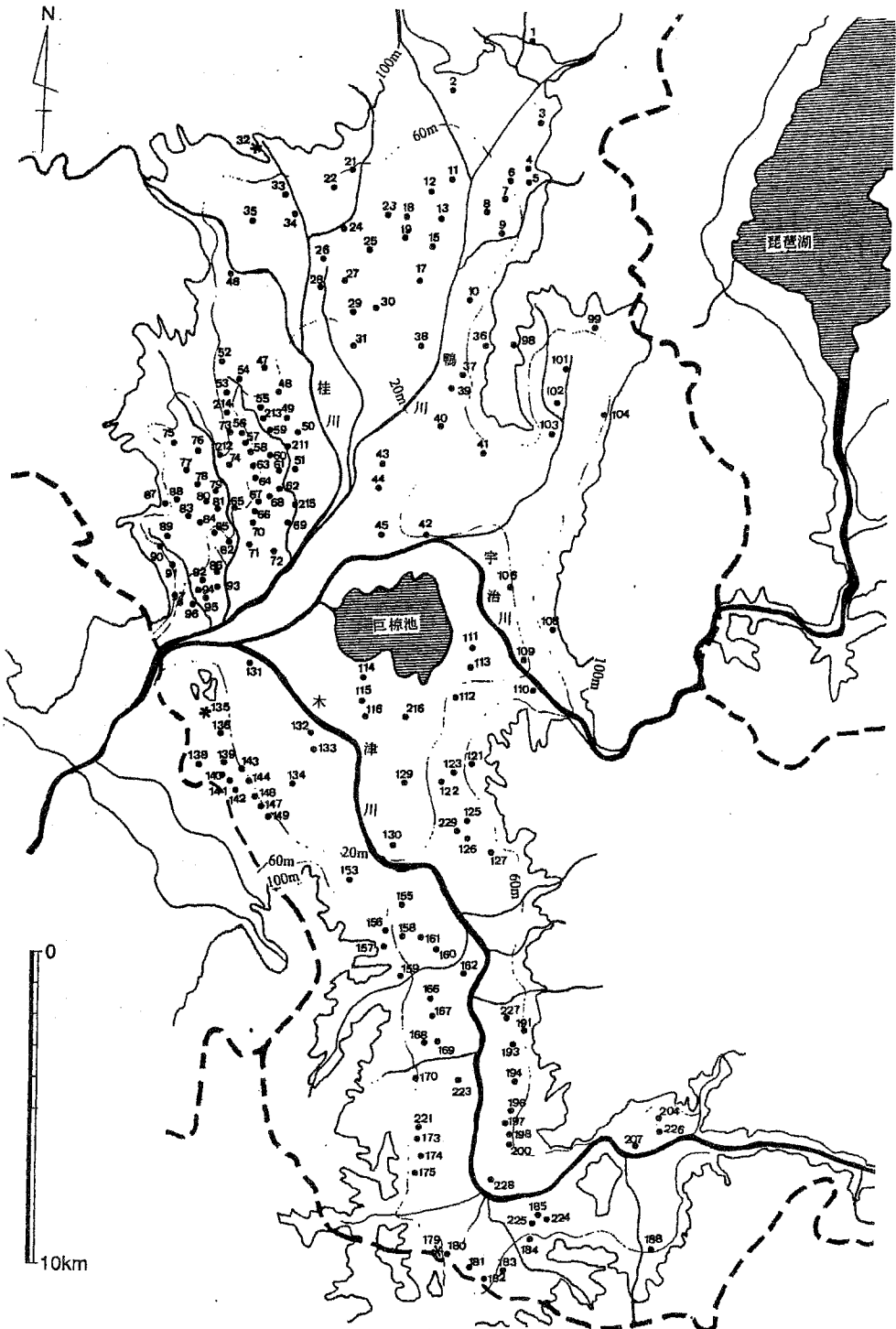
体部櫛描紋土器



奈カリ与遺跡  
栄根遺跡  
田能遺跡  
東奈良遺跡



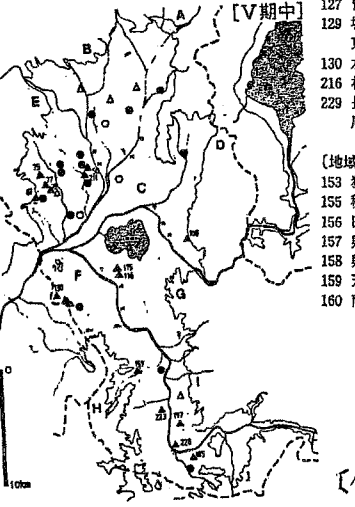
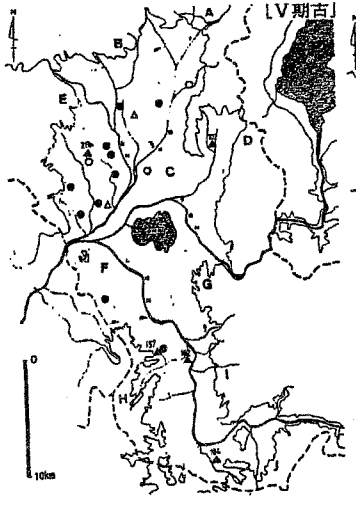
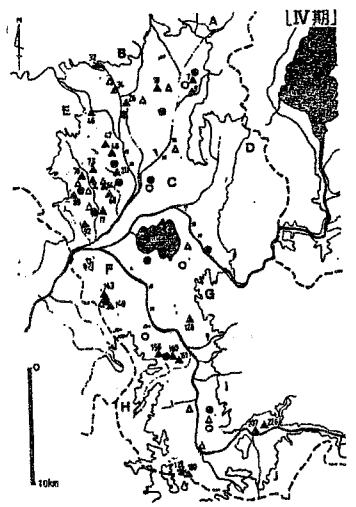
南関東における高杯の変容と畿内・西日本の高杯 (加納・石黒 2002)  
1・2 神奈川県砂田台遺跡3号棟  
3 神奈川県根尾島遺跡289号住居



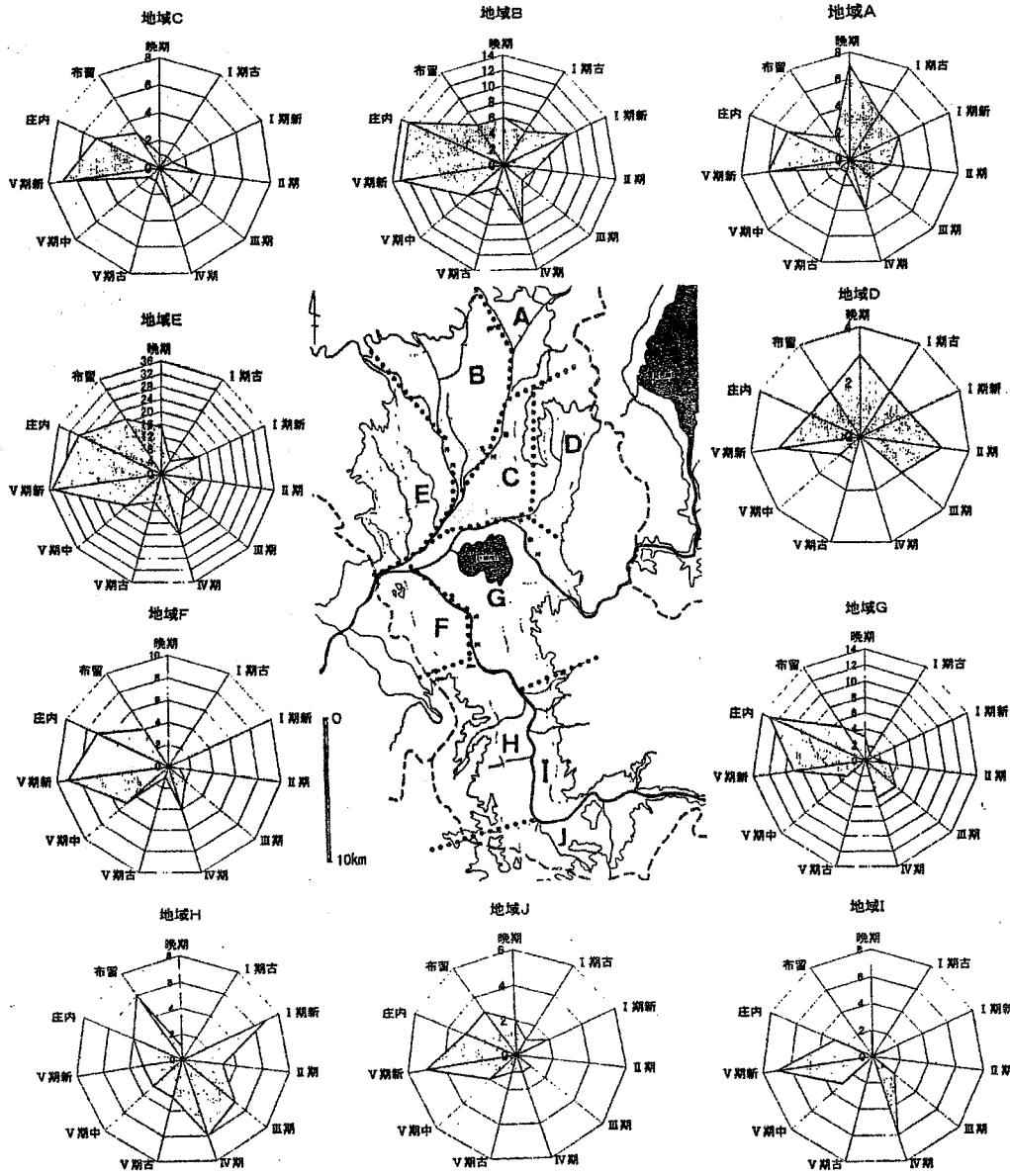
(A) 遺跡の分布 [伊藤 2005]

- |             |           |              |
|-------------|-----------|--------------|
| (地域A)       | 36 南日吉町   | 72 水垂        |
| 1 岩倉忠在地     | 37 月輪     | 73 中野        |
| 2 植物園北      | 39 深草相深町  | 74 北山        |
| 3 一乗寺向畑町    | 40 深草     | 75 大原野石見町    |
| 4 北白川上終町    | 41 谷口町    | 76 上里        |
| 5 小倉町別当町    | 42 桃陵     | 77 井ノ内       |
| 6 北白川道分町    | 43 鳥羽     | 78 今里        |
| 7 吉田山西麓第1   | 44 下鳥羽    | 79 今里北ノ町     |
| 8 吉田山西麓第2   | 45 下三栢    | 80 陶器町       |
| 9 岡崎        |           | 81 明皇野       |
| (地域B)       | (地域D)     | 82 神足        |
| 11 常盤井殿町    | 98 旭山     | 83 東代        |
| 12 内膳町      | 99 安朱     | 84 開田城ノ内     |
| 13 烏丸九太町    | 101 左藤長町  | 85 開田        |
| 15 烏丸御池     | 102 中臣    | 86 南栗ヶ塚      |
| 17 烏丸綾小路    | 103 勤修寺境内 | 87 長法寺谷山     |
| 18 二条城北     | 104 大宅    | 88 長法寺       |
| 19 堀川御池     |           | 89 下海印寺      |
| 21 北野       | (地域E)     | 90 西山田       |
| 22 花園       | 46 松室     | 91 臨山        |
| 23 聚楽       | 47 下津林    | 92 碓         |
| 24 西ノ京      | 48 上久世    | 93 宮脇        |
| 25 壬生       | 49 中久世    | 94 松田        |
| 26 山ノ内      | 50 大森     | 95 下植野南      |
| 27 西院       | 51 東土川    | 96 兼用田       |
| 28 西京極      | 52 極原     | 97 百々        |
| 29 衣田町      | 53 中海道    | 211 東土川西     |
| 30 堂ノ口町     | 54 西ノ岡    | 212 古城       |
| 31 磨橋       | 55 修理式    | 213 久々相      |
| 32 椿ヶ畑銅鑄出土地 | 56 殿町     | 214 南条       |
| 33 村ノ内町     | 57 岸ノ下    | 215 磨田       |
| 34 和泉式部町    | 58 森本     |              |
| 35 西野町      | 59 野田     | (地域F)        |
| 38 烏丸町      | 60 石田     | 131 木津川河床    |
| (地域C)       | 61 鶏冠井    | 132 上奈良      |
| 10 糺橋町      | 62 鶏冠井清水  | 133 内里八丁     |
|             | 63 内裏下層   | 134 新田       |
|             | 64 沢ノ西    | 135 式部谷銅鑄出土地 |
|             | 65 吉備寺    | 136 女郎花      |
|             | 66 鴨田     | 138 幣原       |
|             | 67 中福知    | 139 南山       |
|             | 68 芝ヶ本    | 140 備前       |
|             | 69 羽束師    | 141 西ノ口      |
|             | 70 馬場     |              |
|             | 71 雲宮     |              |

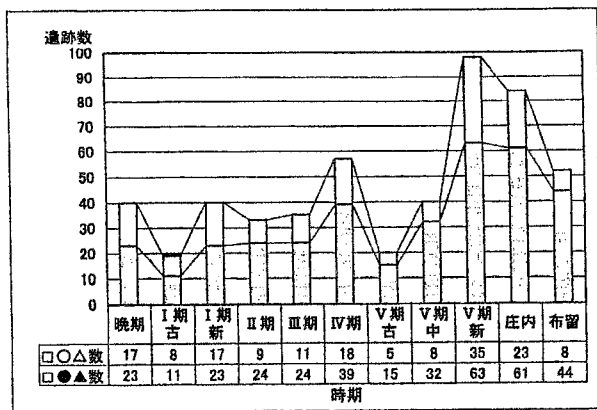
- |             |              |
|-------------|--------------|
| 142 宮ノ背     | 161 大切       |
| 143 幸水      | 162 飯岡       |
| 144 金右衛門堰内  | 166 三山木      |
| 147 美濃山廃寺下層 | 167 宮ノ下      |
| 148 美濃山     | 168 宮ノ口      |
| 149 荒坂      | 170 大福寺      |
|             | 173 森垣外      |
|             | 174 畑ノ前      |
|             | 223 棕の木      |
| (地域G)       | 175 吐師山11号墳  |
| 106 寺界道     | 221 北尻       |
| 108 羽戸山     |              |
| 109 乙方      | (地域I)        |
| 110 塔ノ川     | 191 柏谷       |
| 111 小倉      | 193 蟹満寺下層    |
| 112 若林      | 194 涌出宮      |
| 113 神楽田     | 196 城山       |
| 114 市田齊当坊   | 197 堂ノ上      |
| 115 佐山      | 198 椿井(大塚山)  |
| 116 佐山尼垣内   | 200 椿井天上山墳   |
| 121 上大谷6号墳  | 204 金ヶ辻      |
| 122 芝ヶ原     | 206 例幣       |
| 123 芝ヶ原12号墳 | 207 河原       |
| 125 芝山      | 227 植田       |
| 126 森山      | 228 上粕西      |
| 127 青山      |              |
| 129 塚本・塚本東  | (地域J)        |
| 130 水主      | 179 相楽山銅鑄出土地 |
| 131 林寺跡     | 180 大島       |
| 132 長池古墳下層  | 181 弓田       |
|             | 182 上人ヶ平     |
|             | 183 西山       |
|             | 184 木津城山     |
|             | 185 燈籠寺      |
|             | 188 砂原山墳墓    |
|             | 224 赤ヶ平      |
|             | 225 内田山      |
| (地域H)       |              |
| 153 狭谷      |              |
| 155 稲葉      |              |
| 156 田辺      |              |
| 157 興戸5号墳   |              |
| 158 興戸      |              |
| 159 天神山     |              |
| 160 南垣内     |              |



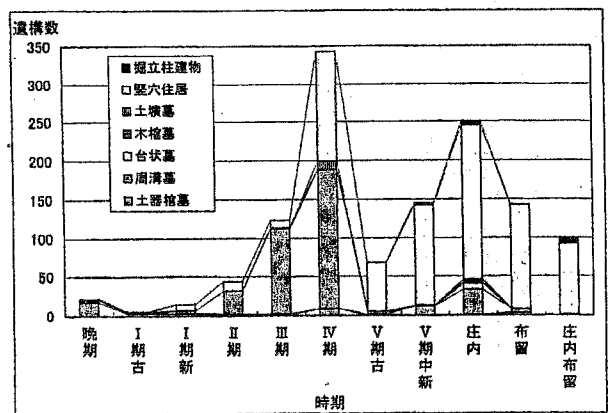
[伊藤 2005]



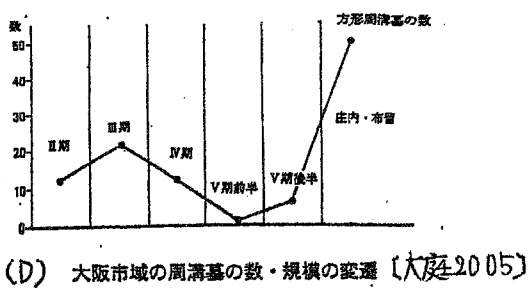
(A) 地域別遺跡数の増減 [伊藤 2005]



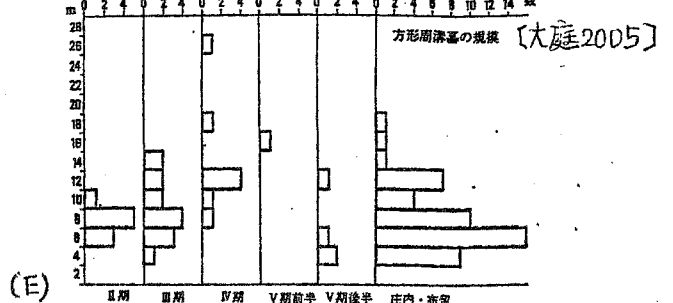
(B) 時期別遺跡数の増減 [伊藤 2005]



(C) 時期別遺構数の増減 [伊藤 2005]



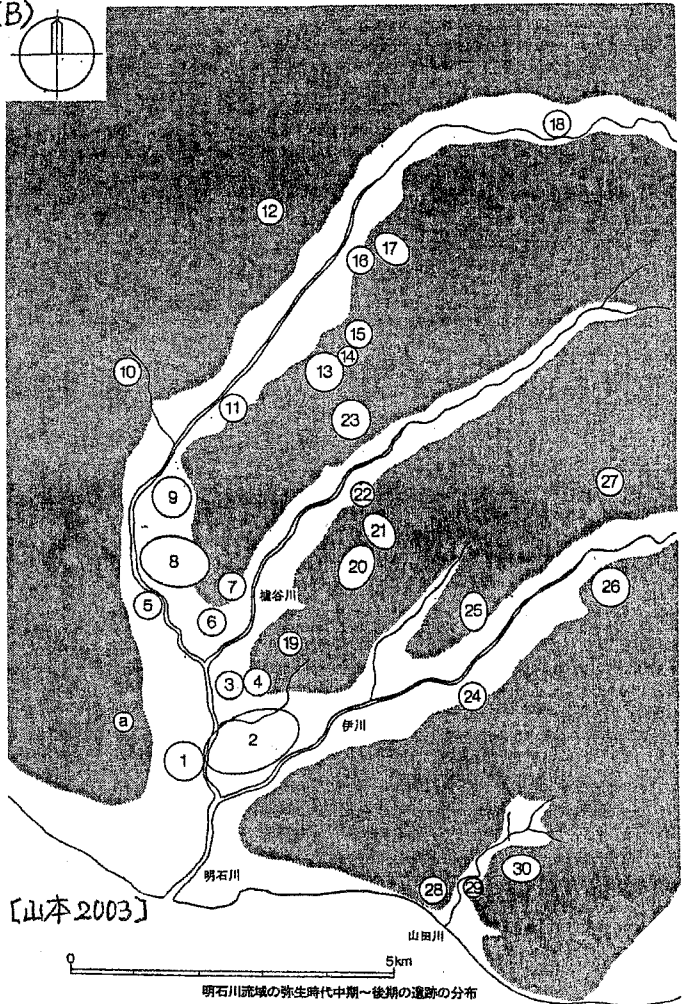
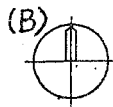
(D) 大阪市域の周溝墓の数・規模の変遷 [大庭 2005]



(E)

(A) 表1 明石川流域の弥生時代中期～後期の集落の動態 [山本2003]

No.	遺跡名	所在地	立地	遺跡の消長				備考
				IV期以前	IV期前半	V期前半	V期後半	
1	吉田南	西区森友	沖積地					破壊
2	新方	西区伊川谷町調和	沖積地					碧玉製玉造
3	谷津	西区玉藻町今津	沖積地					
4	高津橋・岡	西区玉藻町高津橋	段丘上					比高15m
5	田谷	西区中野	沖積地					
6	小山	西区小山	沖積地					
7	百輪寺	西区玉藻町小山	段丘上					
8	玉藻田中	西区富下	沖積地					
9	玉藻田中(平野)	西区平野町福中	沖積地					
10	天谷	西区平野町印嘉	丘陵上					比高50m
11	天畑	西区平野町天畑	段丘上					
12	駒谷池	西区平野町駒田	丘陵上					比高60m
13	西神第50号地点	西区春日台	丘陵上					比高64m
14	西神第48号地点	西区春日台	丘陵上					台状墓
15	西神第38号地点	西区眞賀多谷	丘陵上					有礎式遺製石剣 比高45m
16	栗田	西区神部谷町栗田	段丘上					
17	栗田中ノ池	西区高塚台	丘陵上					有礎式遺製石剣、比高40m
18	押部	西区押部谷町押部	段丘上					
19	水谷	西区玉藻町水谷	段丘上					比高20m
20	有谷	南区玉藻町水谷保カ	丘陵上					磨製石剣・石戈、小型仿製鏡 比高70m
21	孫ヶ谷	西区井咲台町	丘陵上					漆、比高約65m
22	谷口・橋本	西区鎌谷町谷口	沖積地					
23	西神第65号地点	西区程野台	丘陵上					磁灰質砂岩製銅剣型製品 比高65m
24	池上ノ池	西区伊川谷町上野	段丘上					比高30m
25	表山	西区伊川谷町上野	丘陵上					環壕・小型仿製鏡、比高約50m
26	飯高山	西区平岡町	丘陵上					磨製石剣、比高80m
27	久留圭谷	西区伊川谷町前瀬	丘陵上					比高70m
28	待口谷	南区待口谷	丘陵上					比高35m
29	大塚山	南区西宮町	丘陵上					比高20m
30	獅子東石ヶ谷	南区獅子東	丘陵上					比高80m

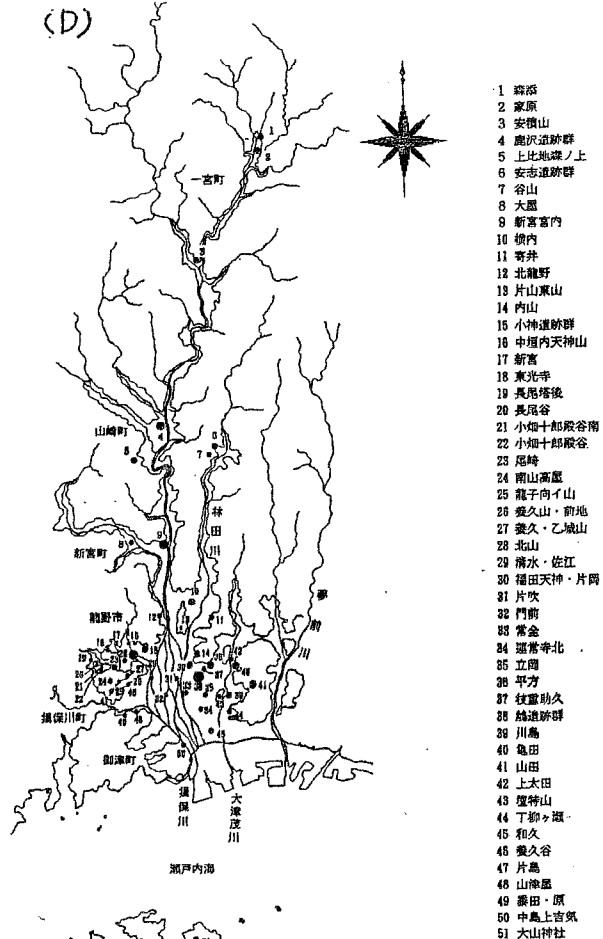


[山本2003]

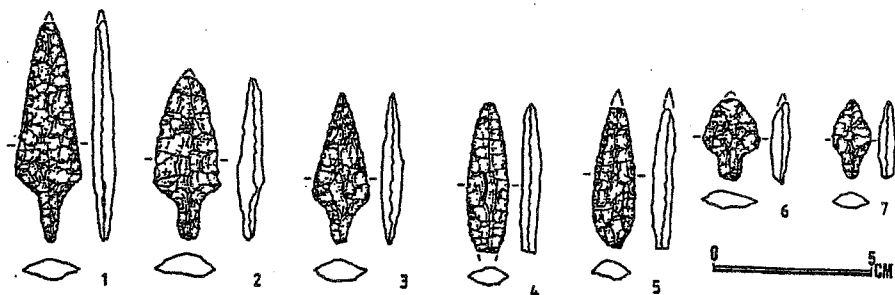
(C) 播磨川流域の弥生時代中期～後期主要集落の消長 [岸本2003]

番号	遺跡名	所在地	立地	遺跡の消長				主な所見	文献
				IV期以前	IV期前半	V期前半	V期後半		
1	森添	一言町森添	山裾					住居1	
2	家原	一言町家原	段丘上					住居28以上	1
3	安積山	一言町安積	丘陵内					住居1	
4	鹿沢遺跡群	山崎町鹿沢	段丘上					住居11以上	2
5	上比地森ノ上	山崎町上比地	段丘上					住居5	3
6	安志遺跡群	山崎町安志	段丘上						4
7	谷山	山崎町長野	高地性					住居2	5
8	大塚	新宮町大塚	段丘上						6
9	新宮宮内(築)	新宮町宮内	平地					住居40、漆器	7
10	横内	龍野市神岡町横内	平地					住居複数	8
11	齊井	龍野市神岡町齊井	山裾					住居12	9
12	北龍野	龍野市龍野町北龍野	山裾						10
13	片山東山	龍野市龍野町片山	高地性						11
14	内山	龍野市香田町内山	山裾谷						11-12
15	小神遺跡群	龍野市神岡町小神	平地					住居5以上	13
16	中屋内天神山	龍野市神岡町中屋内	丘陵上						14
17	新宮	龍野市神岡町新宮	平地					住居複数	14
18	東光寺	龍野市神岡町東光寺	山裾					住居1	14
19	長尾塔後	龍野市神岡町長尾	山裾					住居3	15
20	長尾谷	龍野市神岡町長尾	山裾谷					住居3	15
21	小畑十郎殿谷南	龍野市神岡町小畑	丘陵上					住居6	16
22	小畑十郎殿谷北	龍野市神岡町小畑	丘陵上					住居2	16
23	尾崎	龍野市神岡町尾崎	平地					住居3	17-18
24	南山高處	龍野市神岡町南山	丘陵上					住居3	19
25	龍子向イ山	龍野市神岡町龍子	丘陵上					住居3	20
26	久久山・前地	龍野市神岡町久久山	丘陵上					住居20	21
27	久久山・乙城山	龍野市神岡町久久山	丘陵上					住居9	22
28	北山	龍野市神岡町北山	平地					住居1	23
29	清水・佐江(築)	龍野市神岡町清水	平地					住居複数	17-24
30	福田天神・片岡	龍野市神岡町福田	平地						25
31	片吹	龍野市神岡町片吹	平地					住居6	25
32	門前	龍野市神岡町門前	平地						27
33	常金	太子町常金	平地						28-29
34	道常寺北	太子町道常寺北	平地						29
35	立岡	太子町立岡	平地					住居2	30
36	平方	太子町平方	平地					住居複数	29
37	技重助久	太子町技重	平地					住居7	29
38	輪渡跡群(築)	太子町輪渡	平地					住居複数	28
39	川島	太子町川島	平地					住居7	30
40	龜田	太子町龜田	丘陵上					住居60以上	31
41	山田	太子町山田	丘陵上					住居?	32
42	上太田	太子町上太田	丘陵上						29
43	塚神山	太子町塚神山	高地性					住居2	33
44	丁物ノ瀬	姫路市藤原区	平地					住居2	34
45	和久	姫路市藤原区	平地					住居100以上	35
46	養久谷	播磨川町養久	山裾					住居1	37
47	片島	播磨川町片島	丘陵上					住居2	37
48	山崎	播磨川町山崎	平地					住居1	38
49	栗田原	播磨川町栗田	丘陵内					住居6	38
50	中島上宮氣	播磨川町中島	平地						38
51	大山神社	播磨川町大山	山裾					住居4	40

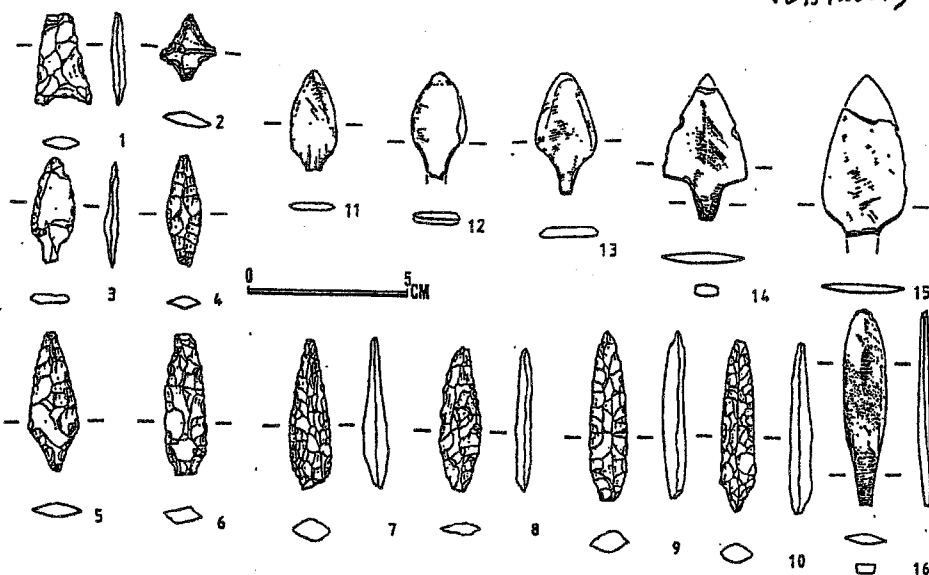
(D)



[岸本2003]



同志社大学資料 第4図 大阪府和泉市観音寺山遺跡(後期前半)の石鏃 (寺前2004)

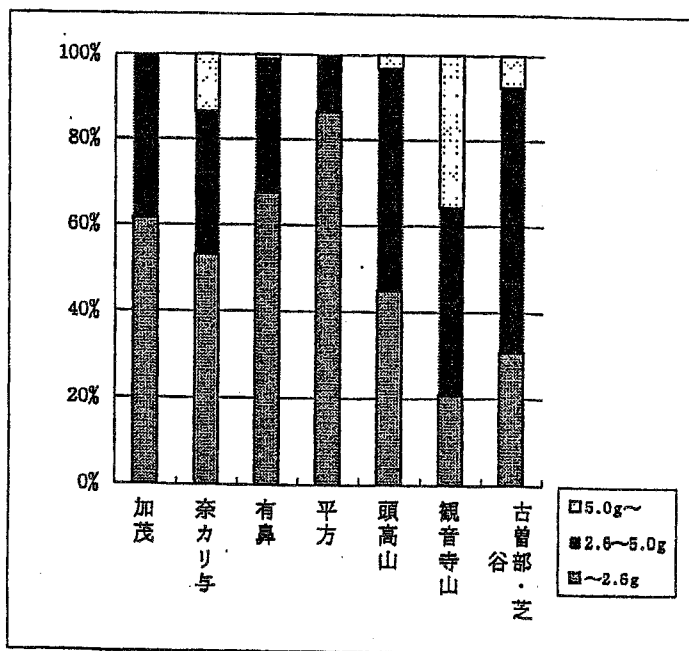


高槻市教委資料 大阪府高槻市古曽部・芝谷遺跡(後期前半)の石鏃 (寺前2004)

畿内地域各地における石鏃の数量

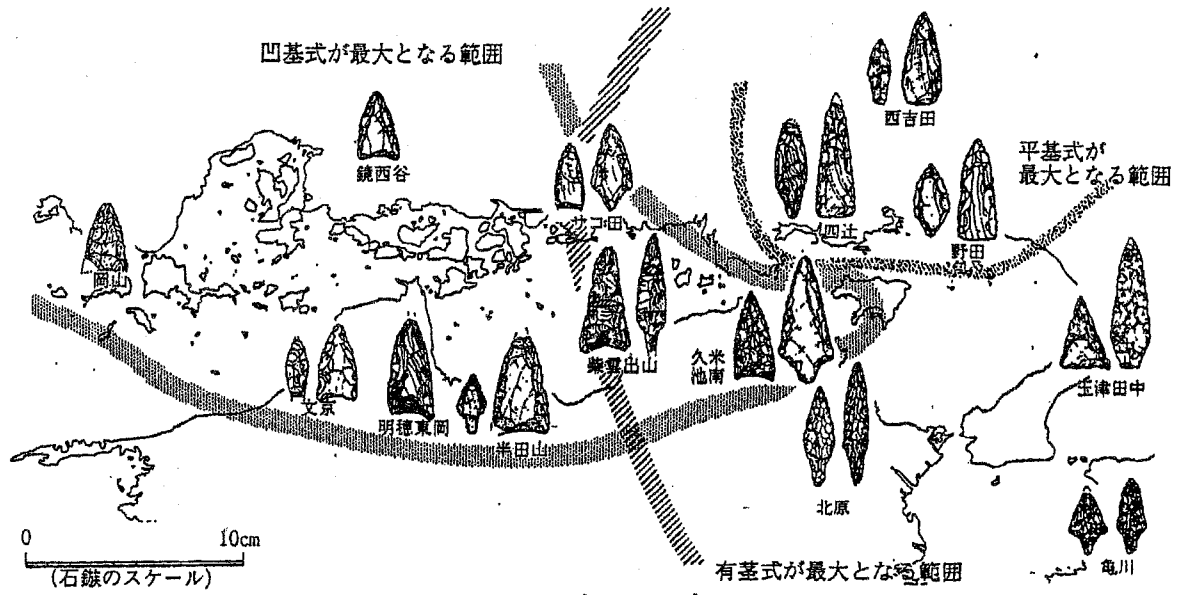
所在	遺跡名	時期	合計	S型	M型	L型	鉄鏃
				~2.6g	2.6~5.0g	5.0g~	
兵庫県川西市	加茂	中期	39	24	15	0	0
兵庫県三田市	奈カリ与	中期後葉	51	27	17	7	3
兵庫県三田市	有鼻	中期後葉	80	54	25	1	2
兵庫県三田市	平方	中期後葉	37	32	5	0	0
兵庫県神戸市	頭高山	中期後葉	29	13	15	1	2
大阪府和泉市	観音寺山	後期前半	53	11	23	19	5
大阪府高槻市	古曽部・芝谷	後期前半	13	4	8	1	3

※古曽部・芝谷遺跡のみ磨製石鏃を含む



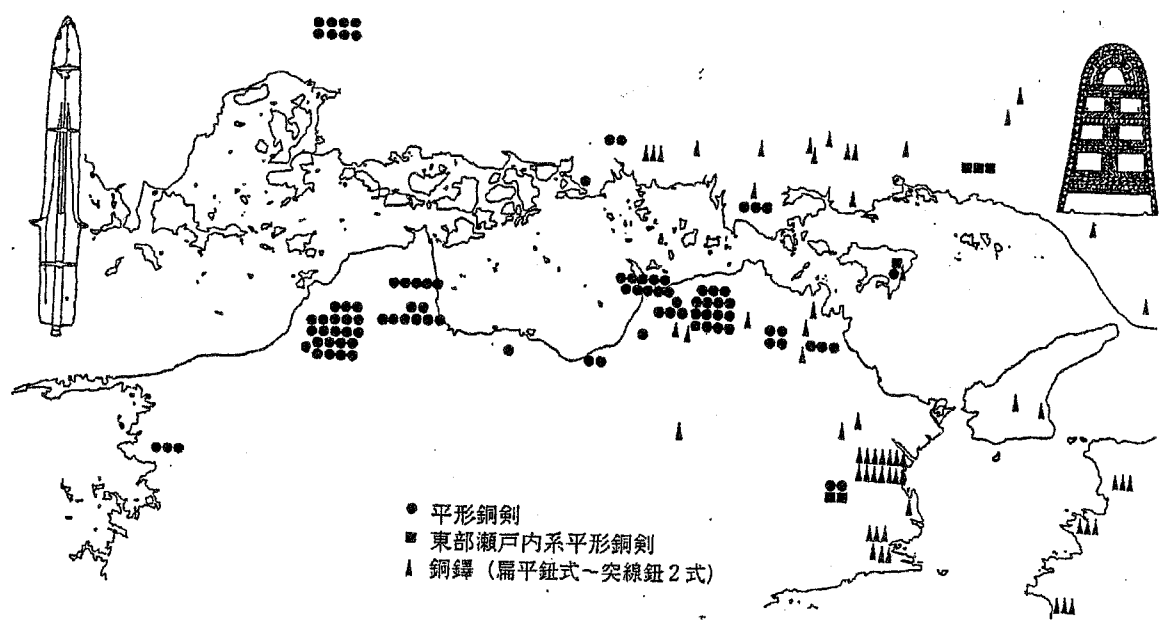
(寺前2004)

各遺跡における石鏃重量 (寺前2004)

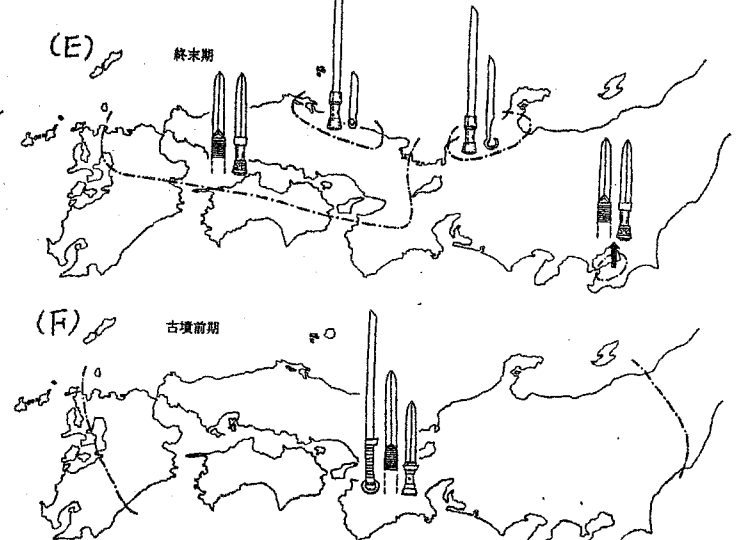
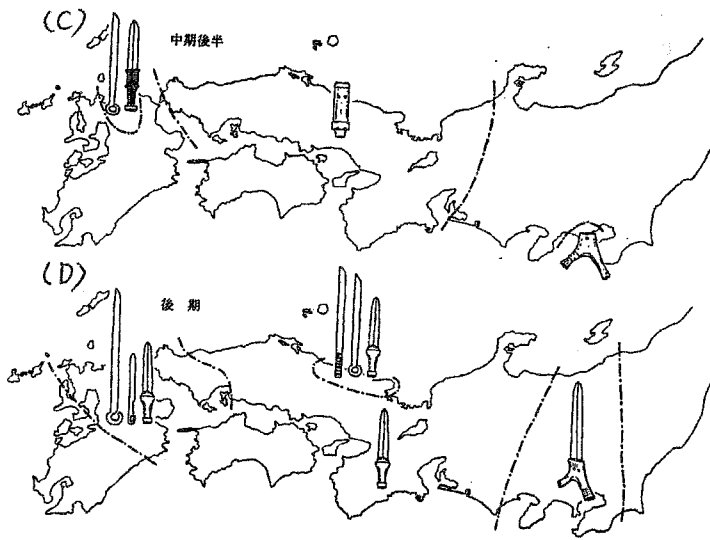


その遺跡や調査区で最も大きい石鏃がどの型式になるかを調べたもの。ごく少数の例外はあるが、瀬戸内では3つの地域圏が設定できる。

(A) 瀬戸内各地の大型石鏃(弥生中期後半～後期前半)(松木2000)



(B) 平形銅剣と銅鐸の分布(弥生中期後半～後期前半)(松木2000)

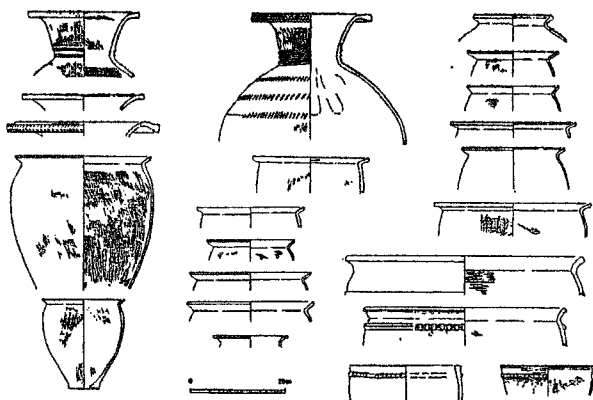
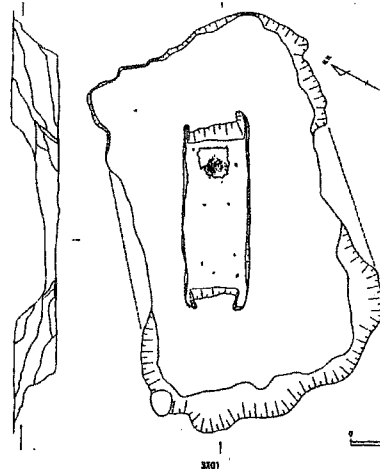
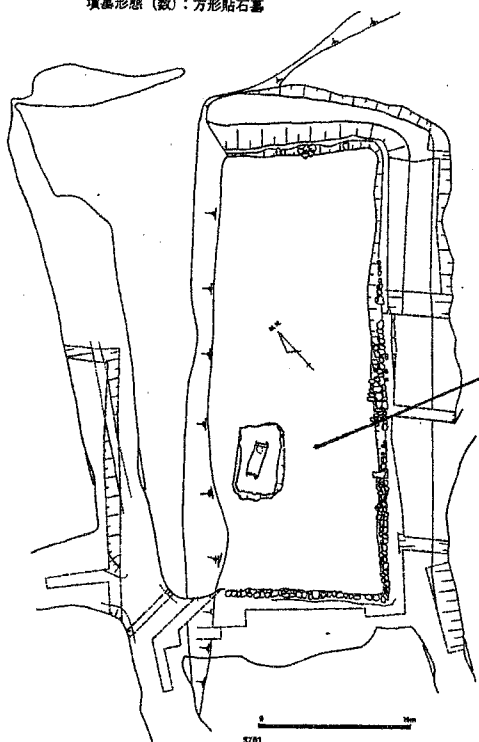


12. 日吉ヶ丘遺跡

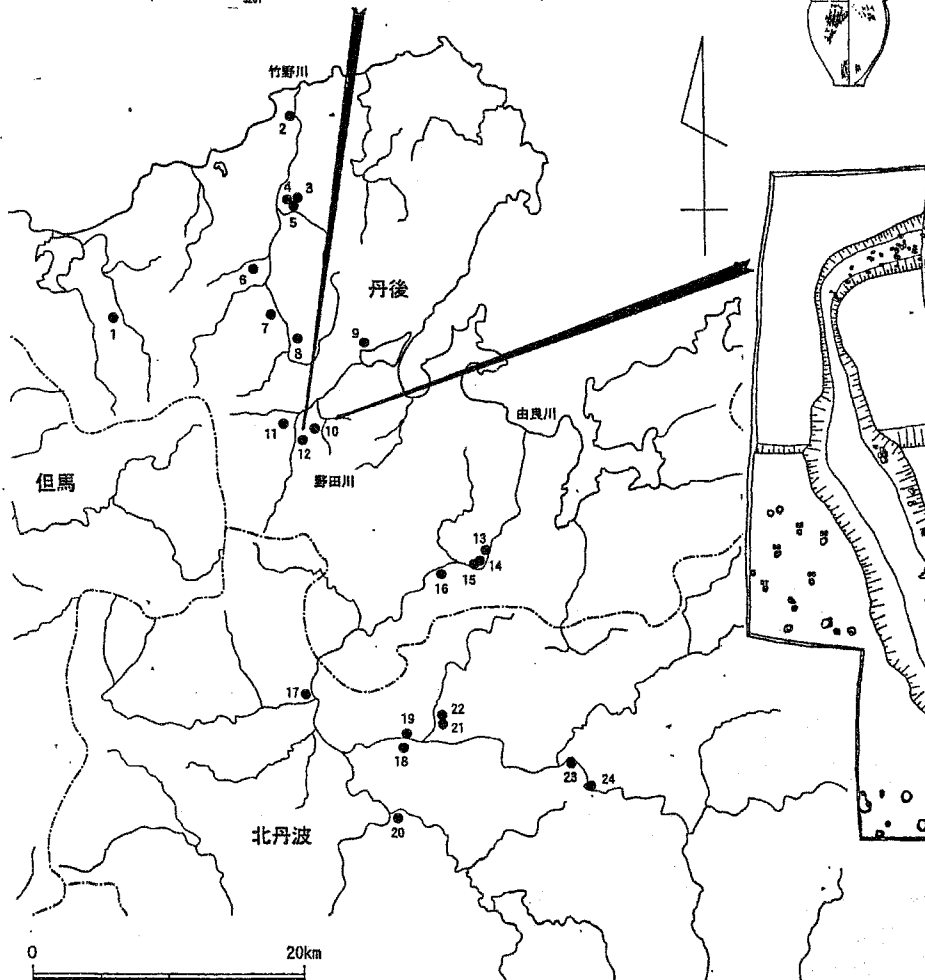
所在地：京都府与謝郡加悦町明石小字馬場

時期：中期中葉新段階

墳墓形態（数）：方形貼石墓



奥書(S202)墓下層出土土器



丹後・北丹波地域の弥生時代中期墳墓分布図

10. 寺岡遺跡

所在地：京都府与謝郡野田町石川小字寺岡

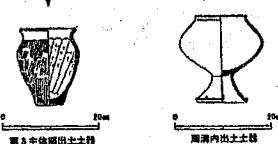
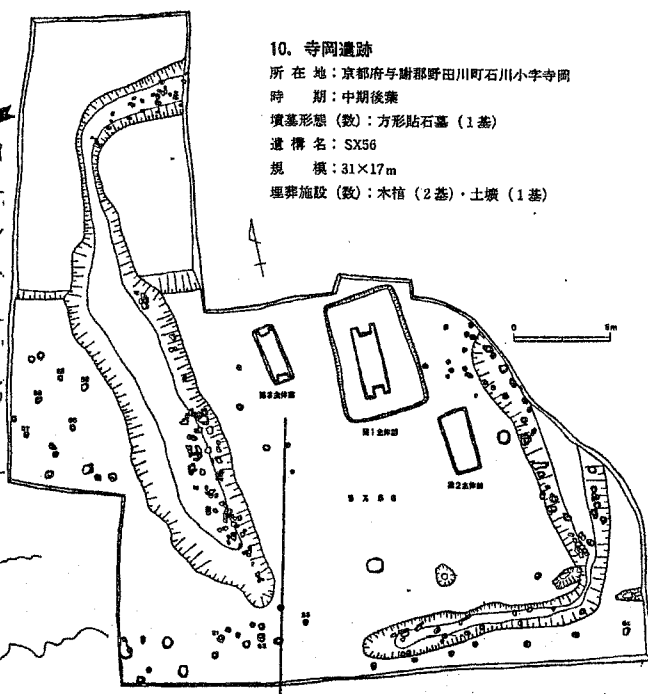
時期：中期後葉

墳墓形態（数）：方形貼石墓（1基）

遺構名：SX56

規模：31×17m

埋葬施設（数）：木棺（2基）・土壇（1基）

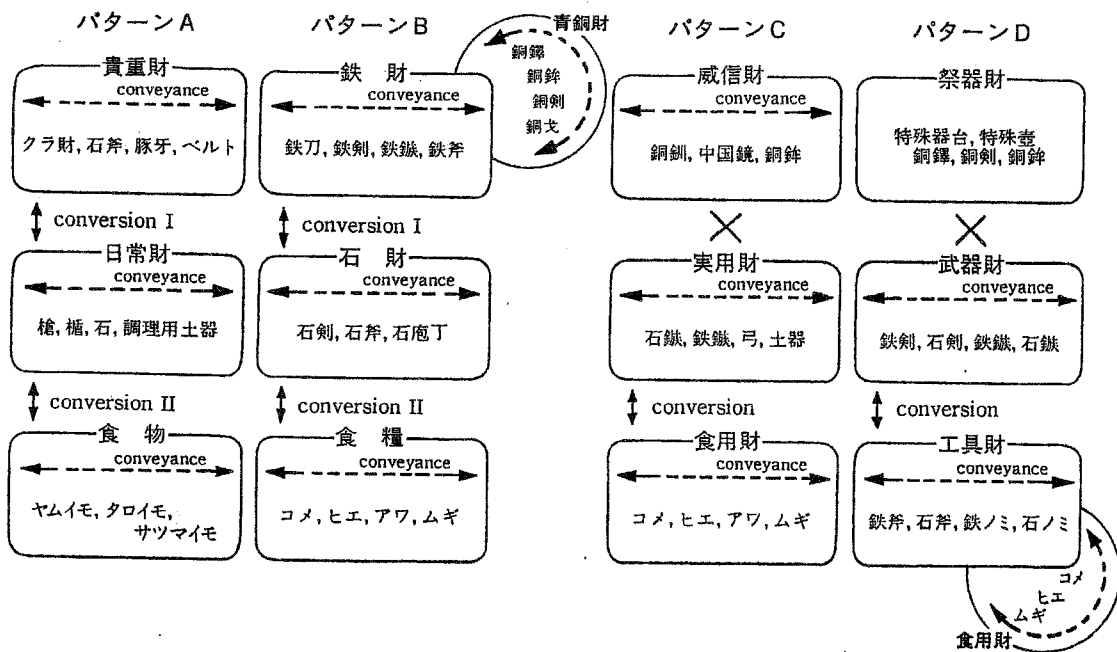


第8土器群出土土器

奥書内出土土器

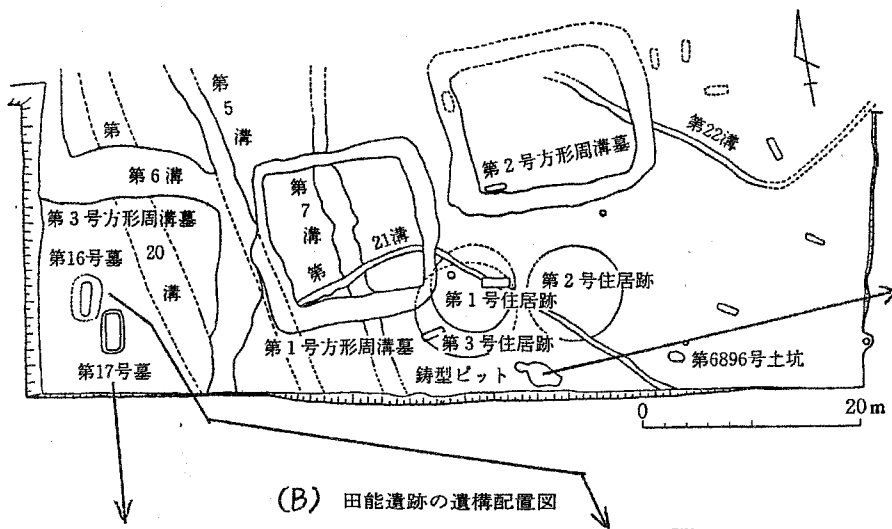
1. 豊谷墳墓群
2. 大山墳墓群
3. 奈具墳墓群
4. 奈具岡遺跡
5. 奈具岡北古墳群
6. カジヤ遺跡
7. 小池墳墓群
8. 帯城墳墓群
9. 千原遺跡
10. 寺岡遺跡
11. 下畑遺跡
12. 日吉ヶ丘遺跡
13. 花ノ木遺跡(志高遺跡花ノ木地区)
14. 志高遺跡 舟戸北地区
15. 志高遺跡 カキ安地区
16. 桑綱上遺跡
17. 石本遺跡
18. 興・観音寺遺跡
19. 小貝遺跡
20. 宮遺跡
21. 三宅遺跡
22. 絵熊遺跡
23. 青野西遺跡
24. 味方遺跡



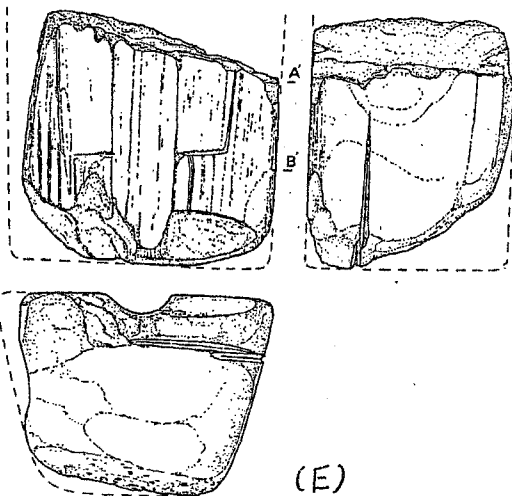


(A) 交換財の領域構成と転換のモデル [森岡 2002]

○は交換財の同一領域、---は交換、—は転換、×は交換不能を示す。パターンAは上野千鶴子1996を一部改変。パターンB・C・Dは森岡による仮設の交換システムのモデル。交換財の領域が重層する場合の多様性を示している。



(B) 田能遺跡の遺構配置図



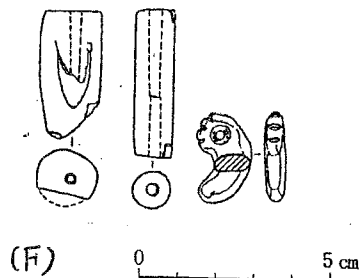
(E)



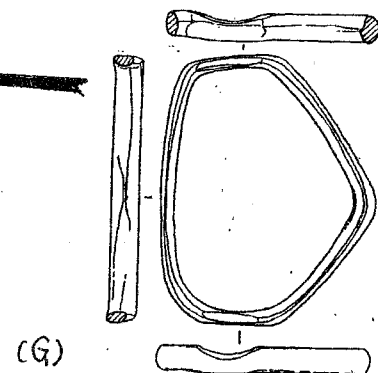
(C) 田能遺跡17号墓の着装銅釧出土状況



(D) 田能遺跡16号墓の管玉出土状況



(F)



(G)

(B)~(G) [橋爪 1992]

(A)

[鳥根県2002]

番 号	京都3	遺跡名	さびらや 相楽山	所在地	京都府相楽郡木津町相楽台	発見年	1982年
型 式	扁平鈕式 (6区装束禪文) 1			立 地	西から東へ伸びる丘陵の南向き斜面。 陵線から少し下がった所で、平地との比高差は約20m。 出土地からの眺望は比較的良い。	所有者	木津町教育委員会
出土状況	埋納坑の可能性のある土坑は東西3.8m、南北2.4mの半円形で、深さ北側で1.2m、南側で0.1mを測る。底部は重機痕と思われる。聞きとりによると鈕を屋根の先端(東)へ向けて横に覆かした状態で埋まっていた。			発見の経緯	宅地造成中 その後発掘調査	保管場所	木津町教育委員会
伴出遺物				指定の状況	木津町指定有形文化財	調査年月日	2002年1月23日
						調査者	守岡正司
						協力者	高橋美久二

遺跡の位置図 (奈良)	遺 跡 写 真	出 土 地 略 図 等

(B)



相楽山銅鐻

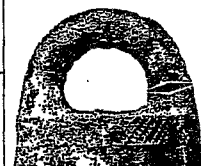
(C)

[鳥根県2002]

番 号	京都6	遺跡名	ひくにじょう 比丘尼城	所在地	京都府与謝郡野田川町幾地小字庄内	発見年	1732年4月9日
型 式	突線鈕5式 (近畿IVC) 1			立 地	丘陵の西を向く急斜面 (七~八合目) 比高差100m以上。	所有者	梅林寺
出土状況				発見の経緯	大雨の日の一部が露出していたところを発見されたという。2個出土したが、1個は曲がっていたので、錆つぶしたとの伝承。	保管場所	京都国立博物館
伴出遺物				指定の状況	国指定重要文化財	調査年月日	2001年6月28日
						調査者	錦田剛志・中川 寧
						同行者	下川賢二

遺跡の位置図 (宮津)	遺 跡 写 真	出 土 地 略 図 等

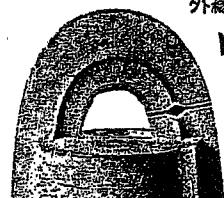
(D)



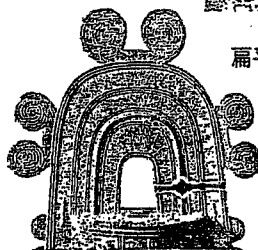
菱環鈕式 (I式)



外縁付鈕式 (II式)

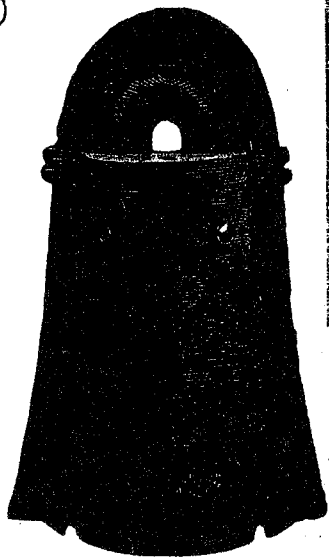


扁平鈕式 (III式)

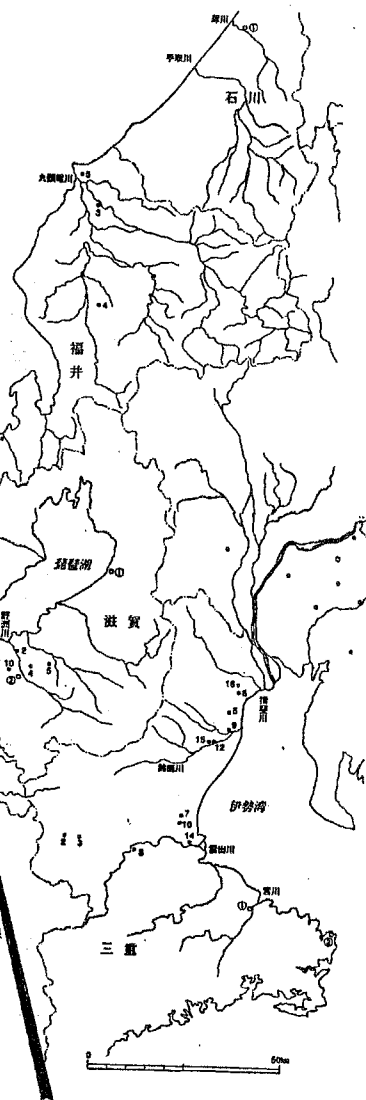
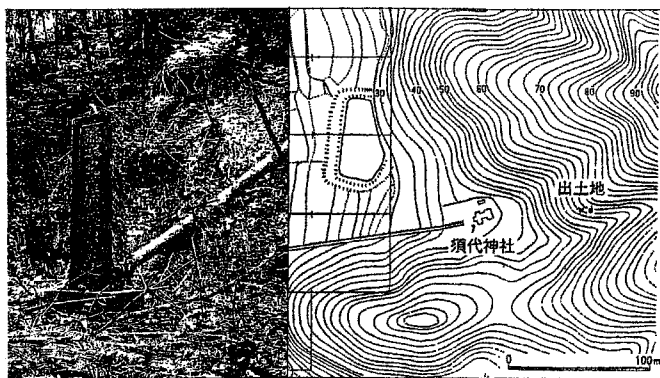


突線鈕式 (IV式)

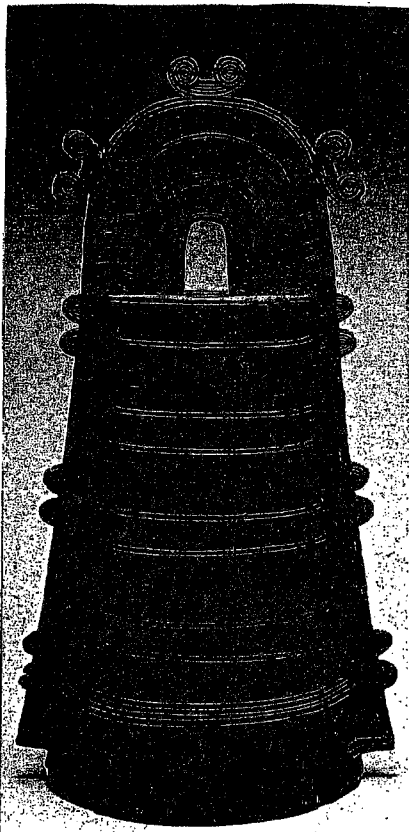
(A)



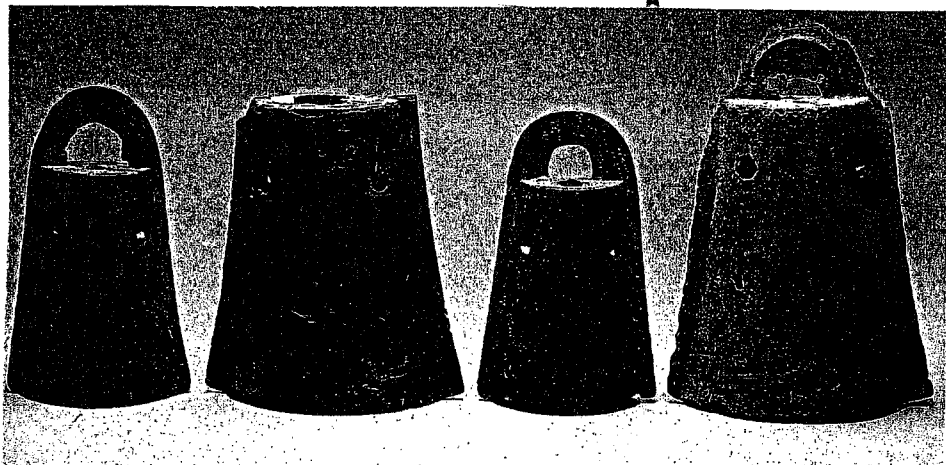
扁平鈕式流水文銅鐸  
与謝郡加悦町須代遺跡  
弥生時代中期 高さ45.7cm  
京都府立丹後郷土資料館藏  
(複製)



(B)



“見る銅鐸”  
突線鈕式六区画袈裟摺文銅鐸  
八幡市式部谷遺跡  
弥生時代後期 高さ66cm  
京都府立山城郷土資料館藏  
(複製)

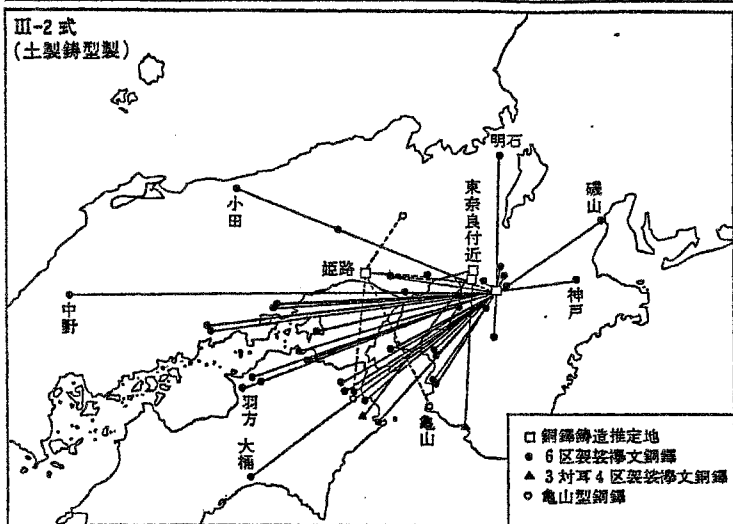
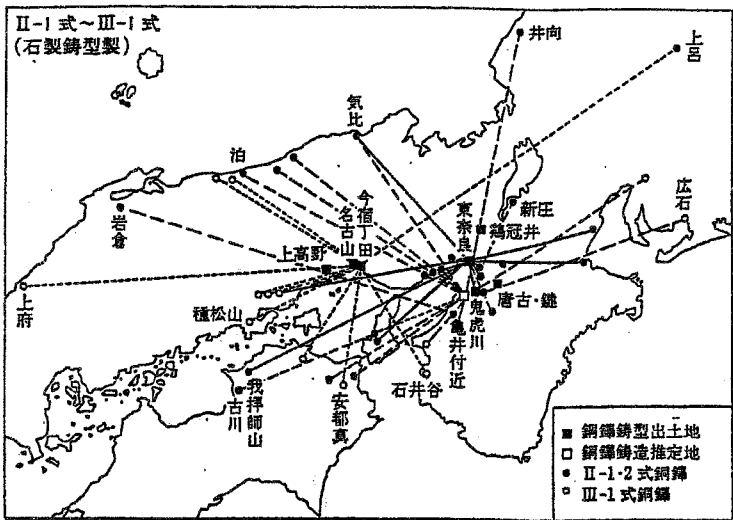


(C) “聞く銅鐸” 外縁付鈕式四区画袈裟摺文銅鐸 京都市梅ヶ畑遺跡 弥生時代中期  
左端の高さ23.4cm 京都府立総合資料館藏 [写一平良・久保・櫻村 1986]

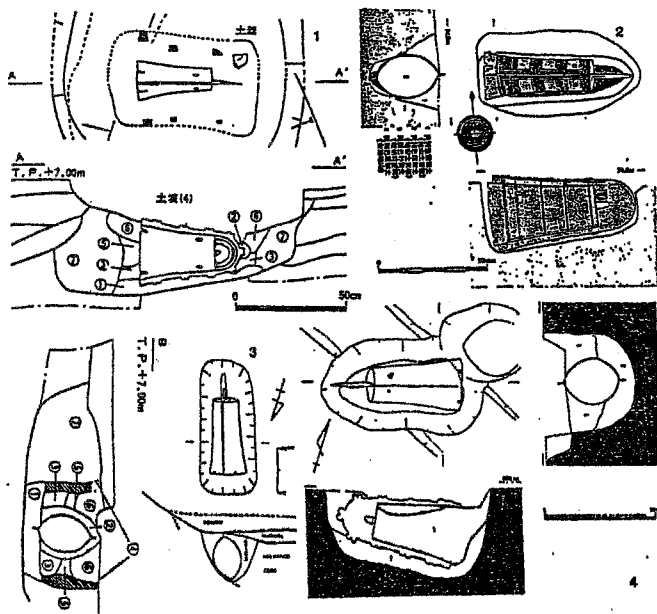
(D)

京都市	山城	八幡市勇山指月	1962	突線鈕3式	近畿ⅡC	66	正木美術館	神戸市博 (1993)
京都2	山城	京都市右京区梅ヶ畑向ノ地町	1863	外縁付鈕2式 外縁付鈕2式 外縁付鈕1式 外縁付鈕1式	4区袈裟摺文 4区袈裟摺文 4区袈裟摺文 4区袈裟摺文	29.2 22.4 23.1 25.8	京都府立総合資料館	入札子埋納 神戸市博 (1993)
京都3	山城	相楽郡木津町相楽台	1982	扁平鈕式	6区袈裟摺文	39.8	木津町教育委員会	奥村・松本(1982)、木津町教委(1992)、神戸市博(1993)
京都4	丹波	北桑田郡京北町下弓削	1861	扁平鈕式	4区袈裟摺文		辰馬考古資料館	梅原(1927)
京都5	丹後	宮津市由良	推 江戸末	不明			不明	小林(1938)
京都6	丹後	与謝郡野田川町比丘尼城	1792	突線鈕5式 不明	近畿ⅣC	107	梅林寺(京都国立博物館)	西岡・梅原(1918)、梅原(1927)
京都7	丹後	与謝郡加悦町明石和田	1893	扁平鈕式	全面Ⅰ区流水文	45.7	京都国立博物館	梅原(1919)、梅原(1827)、三木(1974)
京都8	丹後	舞鶴市下安久ヶ崎	1925	突線鈕3式 突線鈕3式	近畿ⅡC 三遺式	62.4	東博34659 東博34600	梅原(1940)、梅原・赤松(1940)、東博(1981)

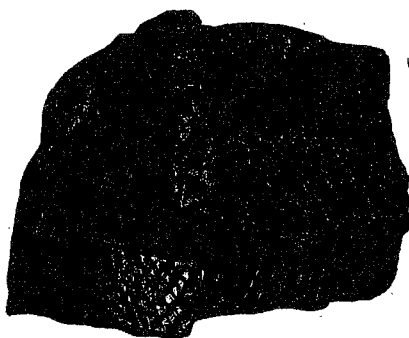
[鳥根県2002] (ほか) 改変



(A) 銅鐸の鑄造地と製品の移動推定図  
(春成「銅鐸の製作工人」『考古学研究』第39巻第2号, 1992年)



(B) 1. 舟形遺跡(大塚野八嶋市)【西村公助2001】 2. 前原遺跡(群馬県碓氷市)【太田好祐2001】  
3. 大塚遺跡(群馬県碓氷市)【萩原信臣2001】 4. 高塚遺跡(岡山県岡山市)【岡本寛久2001】  
【銅鐸から復く弥生社会】一宮市博物館2001を参考。細図・拡大・部分断面など複製  
出土状況に注記性がある銅鐸の単体図例 (単位: 5cm 1cmを統一) (森岡2004)



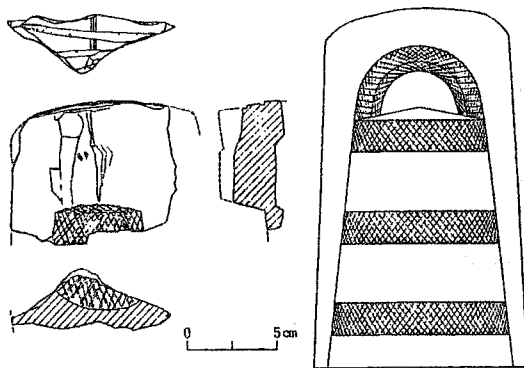
(C) 古式の銅鐸鑄型 向日市鶏冠井遺跡  
弥生時代中期 向日市教育委員会

	石見	備前	備後	播磨	河内	和歌山	大和	山城	阿波	土佐	讃岐	紀伊	近江	丹波	伊賀	伊勢	尾張	三河	遠江	伊豆	信濃	不明	
突線型 1 式	○												◆	◆								○	□
突線型 2 式		○	○		○			○	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆			■	■			○
突線型 3 Ia 式					●			▲	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆			■	■	■	■	○
突線型 3 Ib 式									◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆			■	■	■	■	○
突線型 3 II 式					▽				◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆			■	■	■	■	○
突線型 4 式				▲	○			○								■	■	■	○			▲	○
突線型 5 I 式				△	○											○	○	○	○			△	
突線型 5 II 式				△	○											○	○	○	○			△	

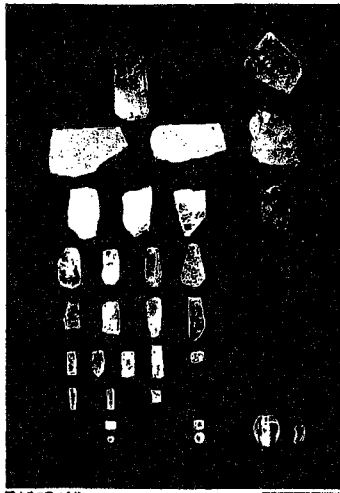
○ 流水紋 □ 三進式削身 ■ 三進式 ◆ A類内線縞盛紋 ◆ A類内線雙弧紋  
○ B類内線縞盛紋 ● B類内線雙弧紋 ▲ C類内線縞盛紋 ▲ C類内線雙弧紋 ▼ 型式不明

(E) 型式別・旧国別分布表

【瀧原1999】



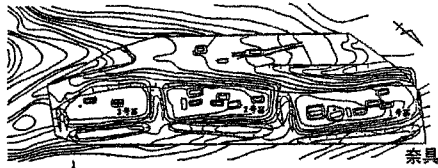
(D) 鶏冠井遺跡の銅鐸鑄型と復原想定図



図水墓の瓦つくり  
京都府京丹波郡 新井岡遺跡 / 弥生時代中期後半  
はびき水墓跡。花巻石を主として数万点以上の石製水墓が  
発見された。これほど多くの美しい水墓に瓦をかけることが  
出来たのは、瓦葺の存在なしには考えられない。

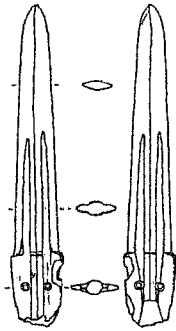
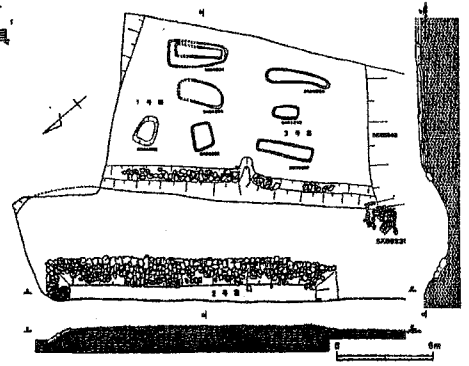


図水墓の製作工程  
京都府京丹波郡 新井岡遺跡 / 弥生時代中期後半

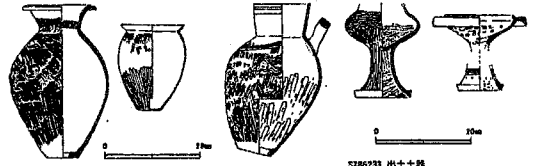


奈具

志高遺跡



宮津市・日置

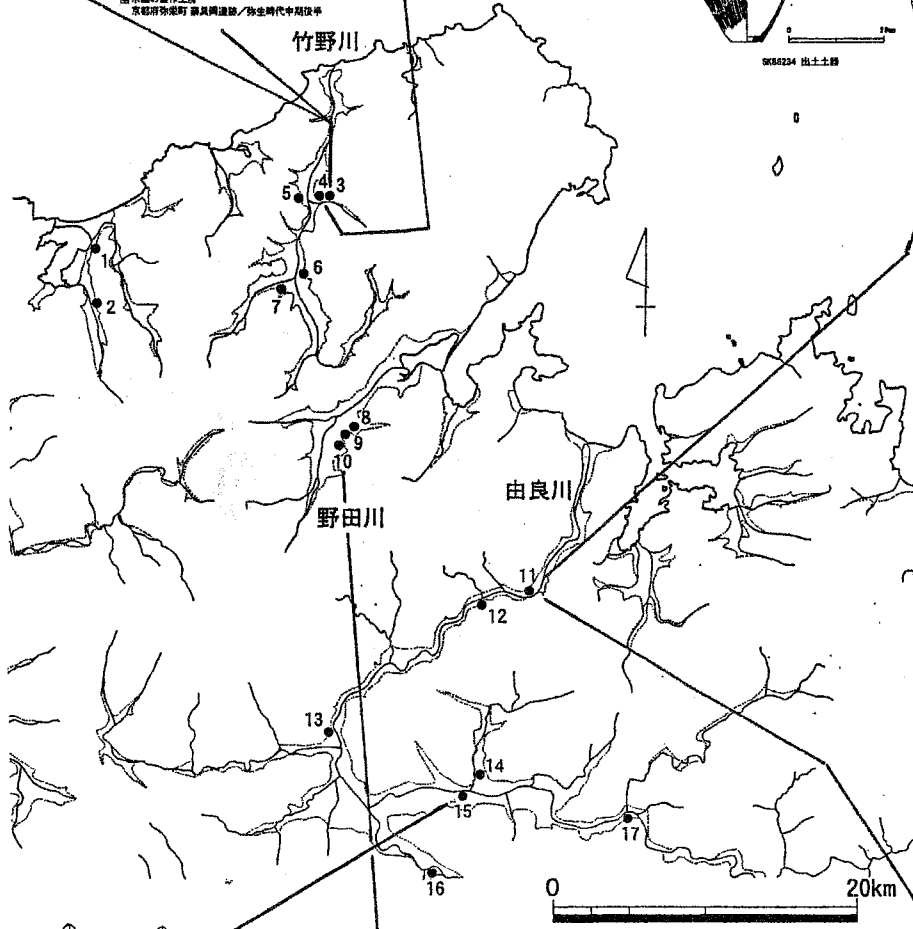


958224 出土土器

3260233 出土土器

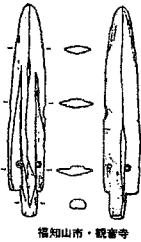


銅剣形石剣  
宮津市日置遺跡

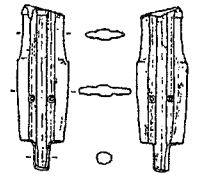
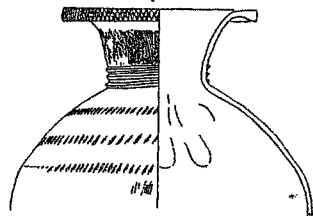


1. 日光寺遺跡
2. 橋爪遺跡
3. 奈具岡遺跡
4. 奈具遺跡
5. オテジ谷遺跡
6. 新町遺跡
7. 途中ヶ丘遺跡
8. 寺岡遺跡
9. 須代遺跡
10. 日吉ヶ丘遺跡
11. 志高遺跡
12. 桑飼上遺跡
13. 石本遺跡
14. 三宅遺跡
15. 興・観音寺遺跡
16. 宮遺跡
17. 青野遺跡

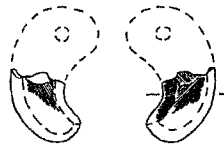
丹後・北丹波地域の弥生時代中期の主要遺跡分布図



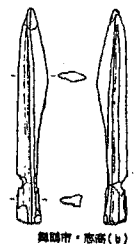
福知山市・観音寺



舞鶴市・志高(a)



奈具岡遺跡出土ガラス勾玉

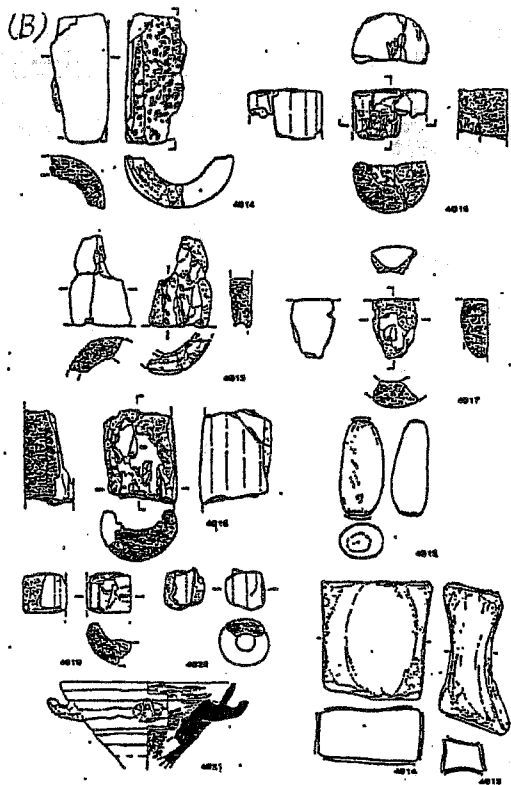


舞鶴市・志高(b)



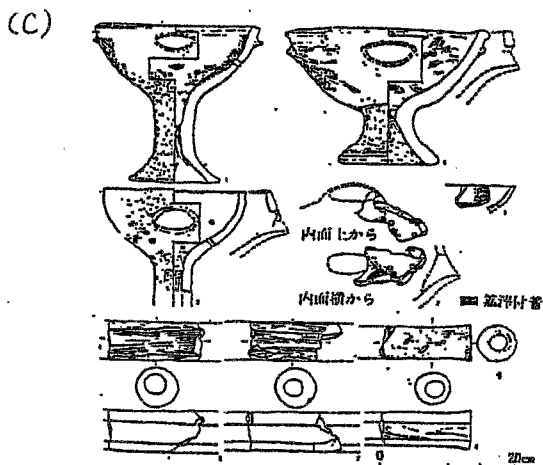
〔濱田2001〕

高杯状土器 (1-4), 高杯状土器 (5)

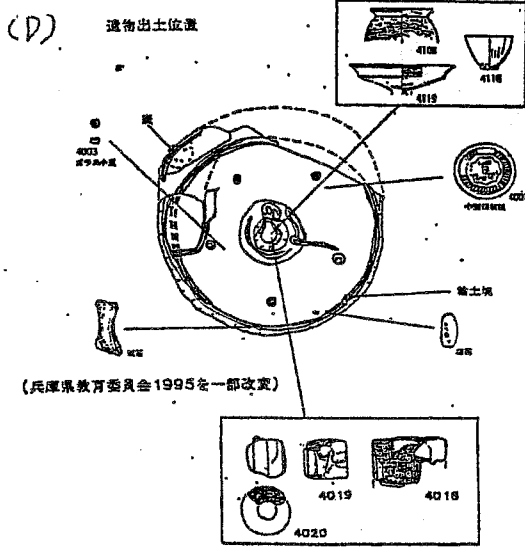


〔多賀2001〕

高杯状土器出土位置関係図

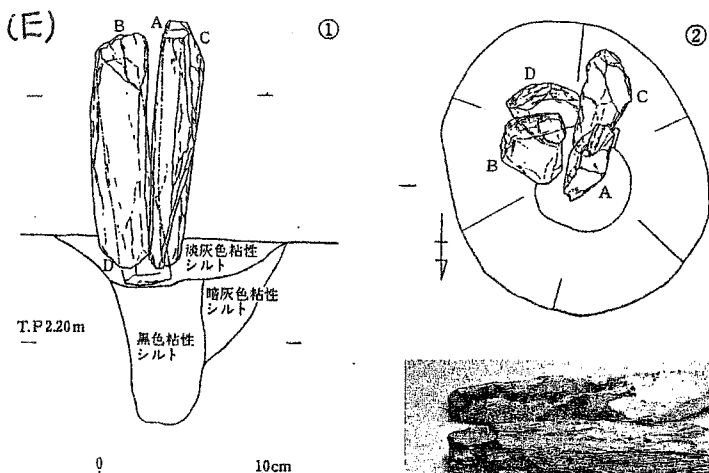


高杯状土製品と送風管 奈良県唐古・鏡遺跡出土  
(藤田三郎・豆谷和之「平成8年度唐古・鏡遺跡第61  
次発掘調査概報」田原本町教育委員会, 1997より)

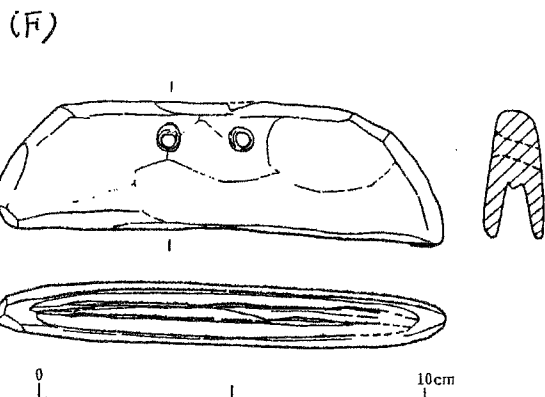


〔兵庫県教育委員会1995を一部改変〕

唐土地区 SH54006 の遺構と遺物.〔多賀2001〕

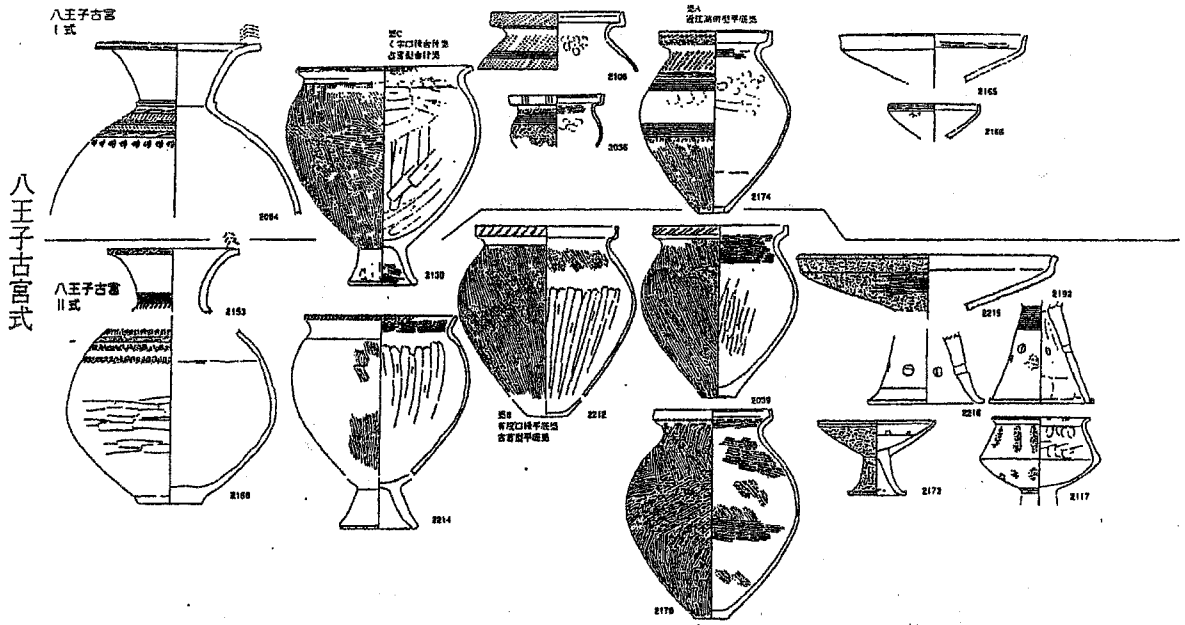


①立面図 (北側から)  
②平面図  
③取り上げ後の原材写真



石製刃部を装着したと考えられている  
組み合わせ式木製穂摘具の一例  
(兵庫県玉津田中遺跡, 鈴木敬二1999より, スケール改変)

(A)

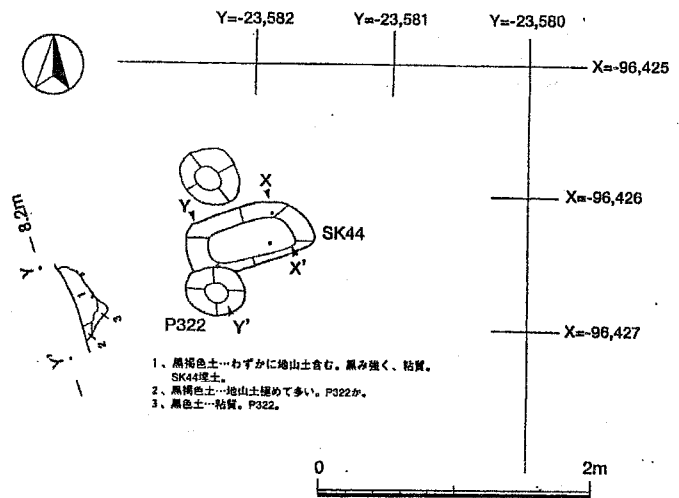


(B)



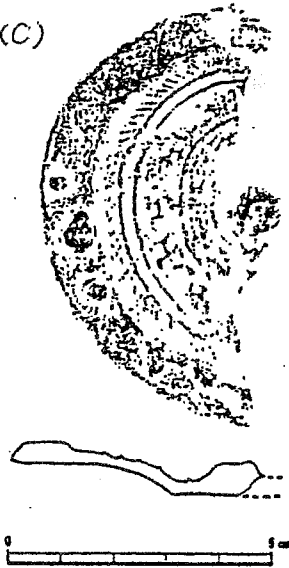
表山遺跡出土鏡  
(兵庫県教育委員会 2000)

八王子古宮式編年略図(矢作・赤塚 2003)

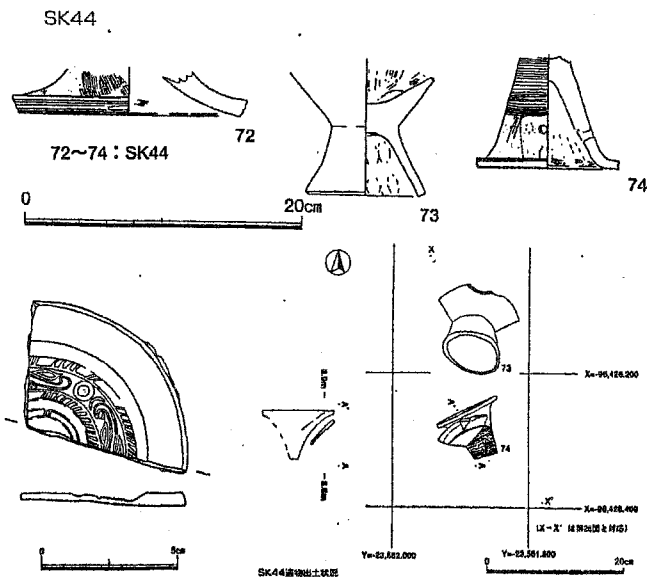


1. 黒褐色土…わずかに埴山土含む。黒み強く、粘質。SK44埋土。
2. 黒褐色土…埴山土埋めて多い。P322か。
3. 黒色土…粘質。P322。

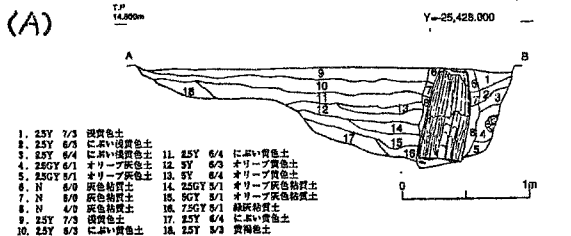
(C)



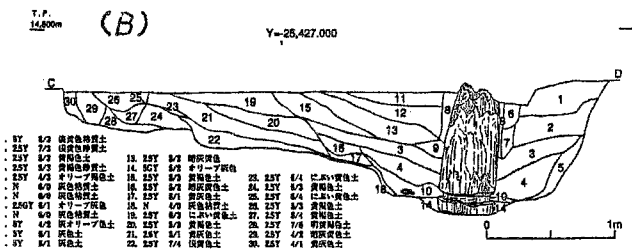
青谷遺跡(神戸市)出土の重圈文  
日光鏡系小型仿製鏡(森岡作図)



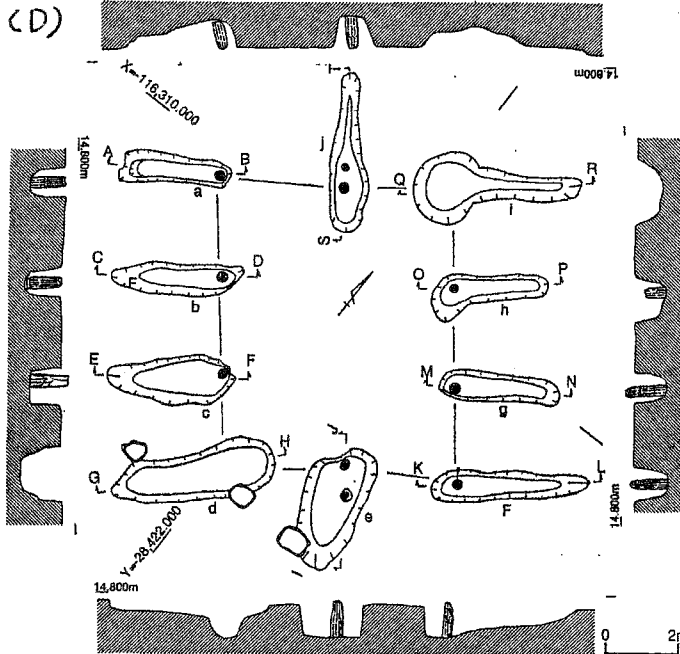
(D) 高蔵遺跡(愛知県)出土の龍文鏡と弥生後期初頭の土器(名古屋市委 2003)



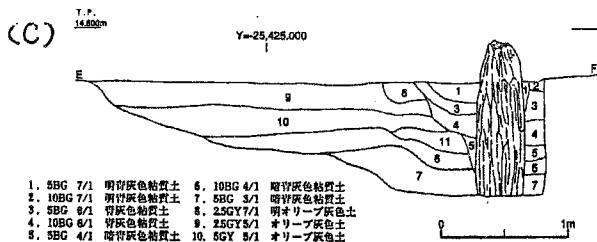
柱穴 a 土層断面実測図



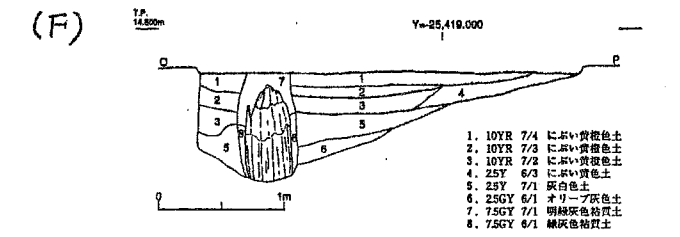
柱穴 b 土層断面実測図



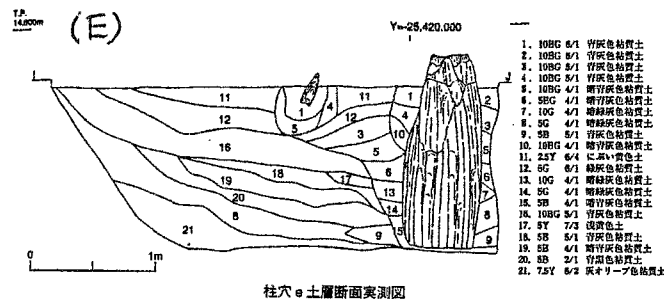
大型掘立柱建物跡 SB001 平面・断面実測図



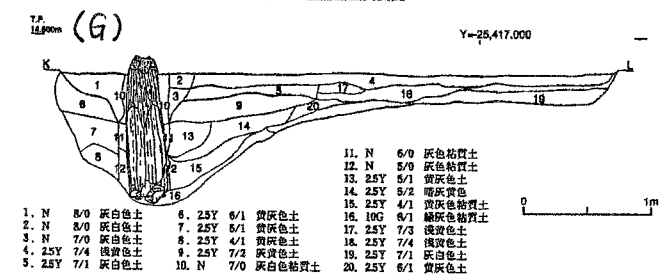
柱穴 c 土層断面実測図



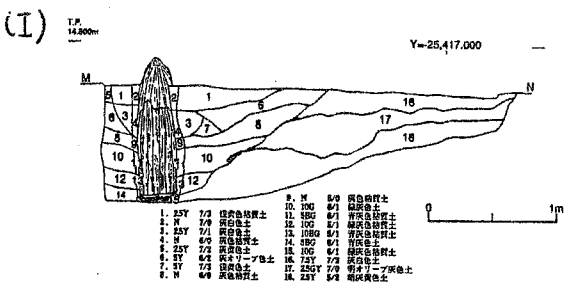
柱穴 h 土層断面実測図



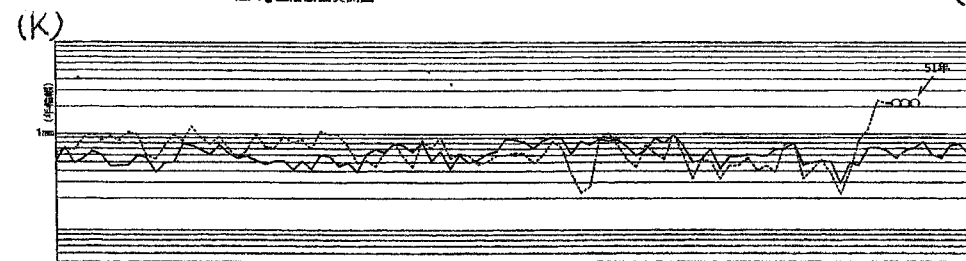
柱穴 e 土層断面実測図



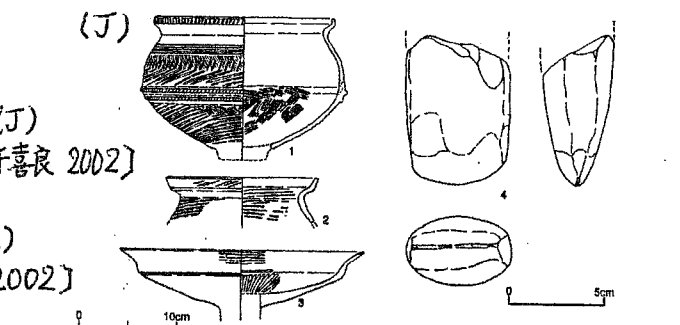
柱穴 f 土層断面実測図



柱穴 g 土層断面実測図



ヒノキの層年パターングラフ (実線) と柱穴 h の年輪パターングラフ (点線)



弥生時代出土遺物実測図

表1 柱根の樹種の年輪年代

柱根	樹種	年輪数	t 値	年輪年代
a	ヒノキ	118	—	—
b	コウヤマキ	—	—	—
c	コウヤマキ	—	—	—
d	—	—	—	—
e	コウヤマキ	—	—	—
f	コウヤマキ	—	—	—
g	コウヤマキ	—	—	—
h	ヒノキ	138	5.3	51
i	—	—	—	—
j	ヒノキ	—	—	—



この事業は、平成 17 年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものです。